

第 6 章

就学後児童の保護者を 対象とした調査

1. 子どもと家族について

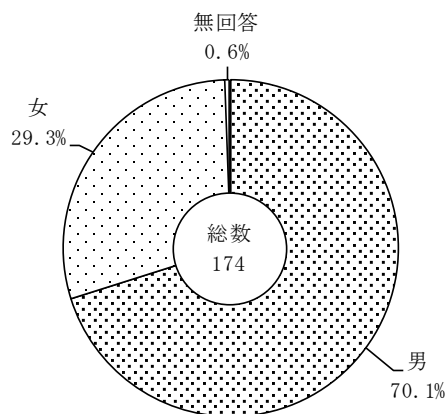
(1) 性別・年齢

問1 あて名のお子さんの性別と年齢をお答えください。

①性別

「男」は70.1%、「女」は29.3%となっています。

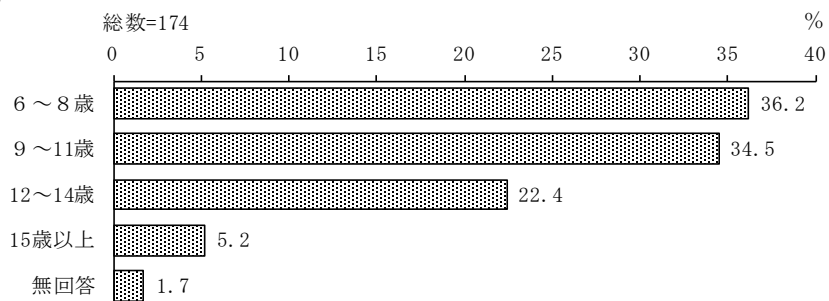
【問1① 性別】



②年齢

「6～8歳」が36.2%と最も多く、次いで「9～11歳」が34.5%、「12～14歳」が22.4%、「15歳以上」が5.2%となっています。

【問1② 年齢】



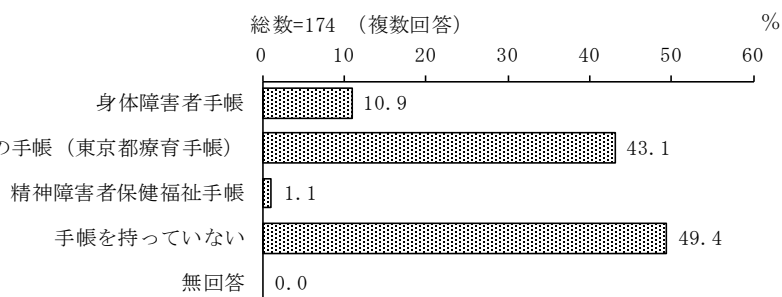
(2) 手帳の所持状況

問2-① あて名のお子さんは障害者手帳をお持ちですか。(あてはまるものすべてに○) 申請中のものがあれば、【申請中】に○をつけてください。

①手帳の所持状況

「手帳を持っていない」が49.4%と最も多く、次いで「愛の手帳（東京都療育手帳）」が43.1%、「身体障害者手帳」が10.9%となっています。愛の手帳（東京都療育手帳）

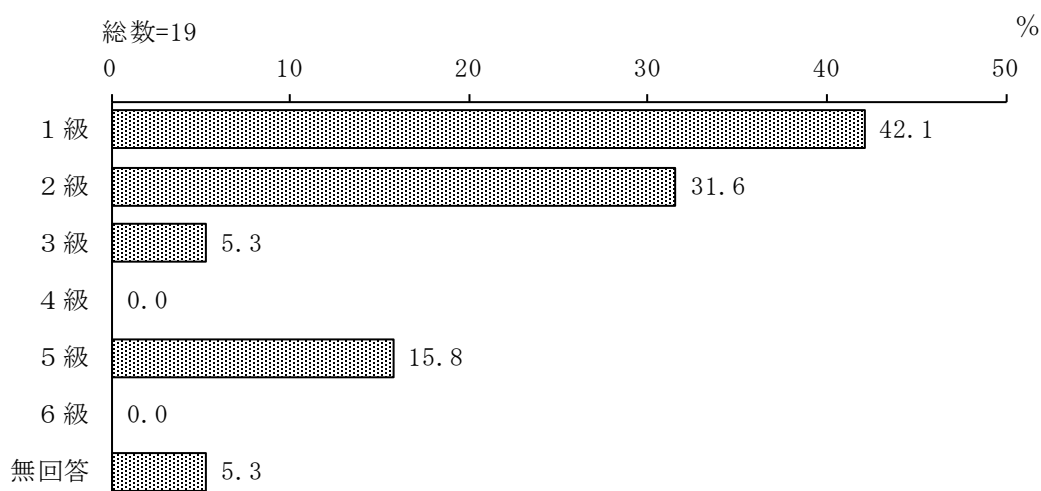
【問2-①-1 手帳の所持状況】



②身体障害者手帳の等級

「1級」が42.1%と最も多く、次いで「2級」が31.6%、「5級」が15.8%、「3級」が5.3%となっています。

【問2-①-2 身体障害者手帳の等級】

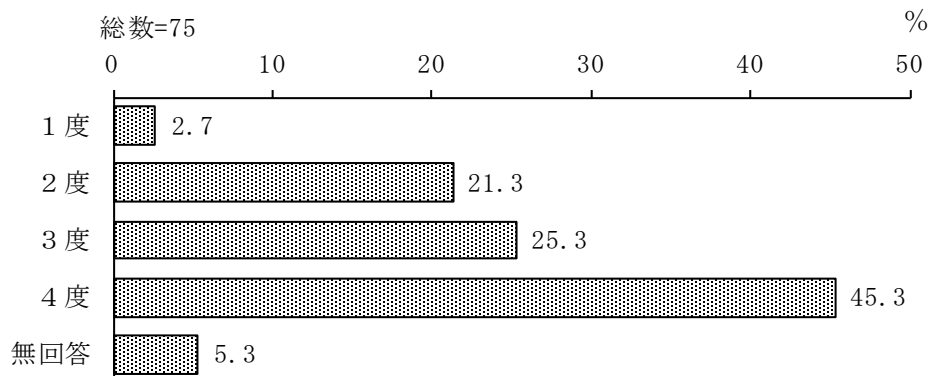


※数字が小さい程、重度であることを表しています。

③愛の手帳の程度

「4度」が45.3%と最も多く、次いで「3度」が25.3%、「2度」が21.3%となっています。

【問2-①-3 愛の手帳の程度】



※数字が小さい程、重度であることを表しています。

④精神障害者保健福祉手帳の等級

2人中1人が「3級」と回答しています。

⑤申請中の手帳

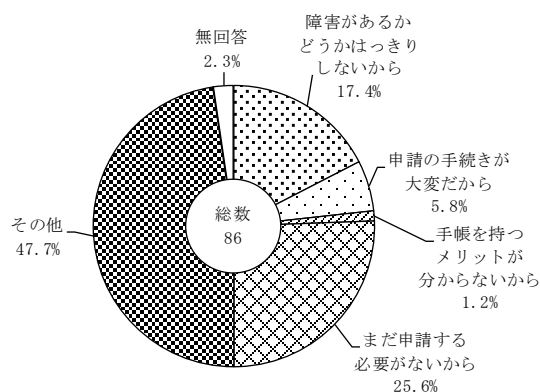
2人中1人ずつが、「愛の手帳（東京都療育手帳）」、「精神障害者保健福祉手帳」と回答しています。

(3) 手帳を持っていない理由

問2-② 問2-①で「手帳を持っていない」を選んだ方にお聞きします。手帳をお持ちでない理由について、次のうちからあてはまるものをお選びください。(1つに○)

「まだ申請する必要がないから」が25.6%と最も多く、次いで「障害があるかどうかははっきりしないから」が17.4%、「申請の手続きが大変だから」が5.8%となっています。「その他」では、「障害があると思っていないから」、「申請できるレベルではないから」などの回答がありました。

【問2-② 手帳を持っていない理由】

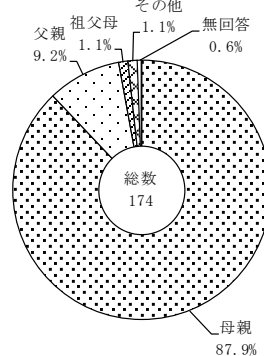


(4) 調査票の回答者

問3 この調査票にご回答いただいている方はどなたですか。あて名のお子さんから見た関係をお選びください。(1つに○)

「母親」が87.9%と特に多くなっています。次いで「父親」が9.2%となっています。

【問3 調査票の回答者】

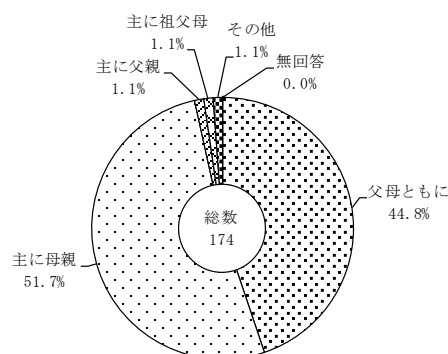


(5) 子育てを主にしている人

問4 あて名のお子さんの子育てを主にしている方はどなたですか。(1つに○。続柄はお子さんから見た関係です)

「主に母親」が51.7%と最も多く、次いで「父母ともに」が44.8%となっています。

【問4 子育てを主にしている人】



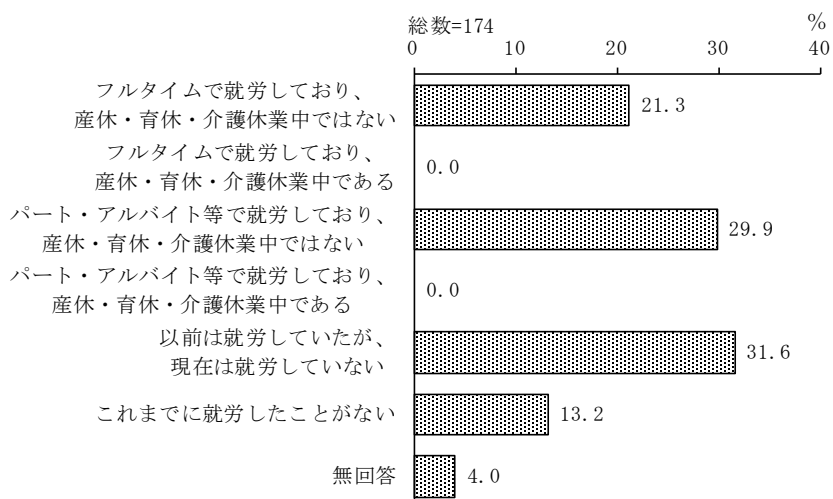
(6) 保護者の就労状況

問5 保護者の方の現在の就労状況について、次の中からあてはまるものを選んでください。(1つに○)

①母親の就労状況について

「以前は就労していたが、現在は就労していない」が31.6%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が29.9%、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が21.3%、「これまでに就労したことがない」が13.2%となっています。

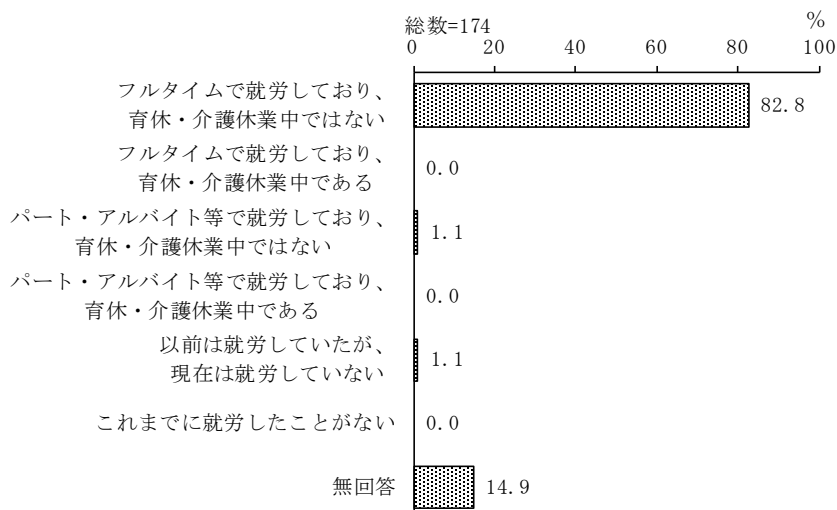
【問5① 保護者の就労状況（母親の就労状況について）】



②父親の就労状況について

「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が82.8%と特に多くなっています。

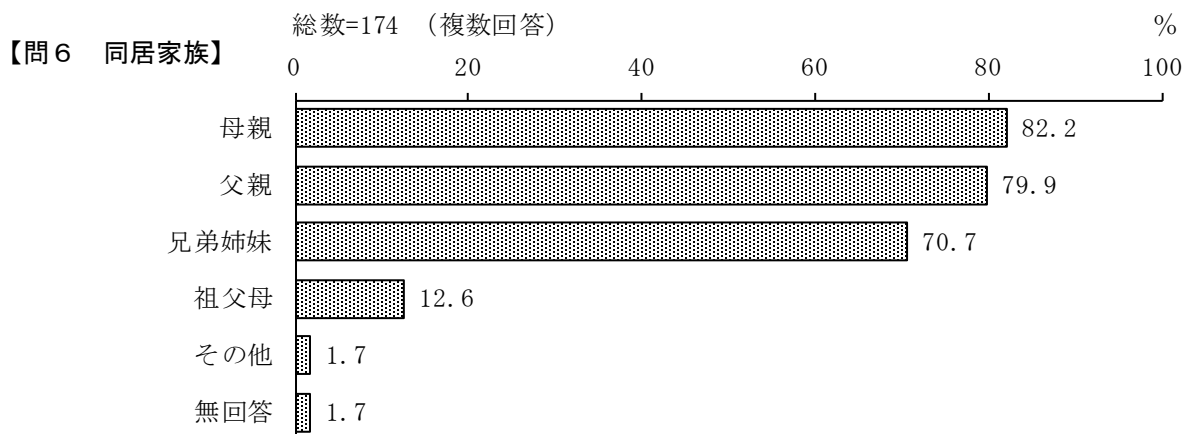
【問5② 保護者の就労状況（父親の就労状況について）】



(7) 同居家族

問6 あなたを含め、お子さんと同居している家族はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○。続柄はお子さんからみてのものです。)

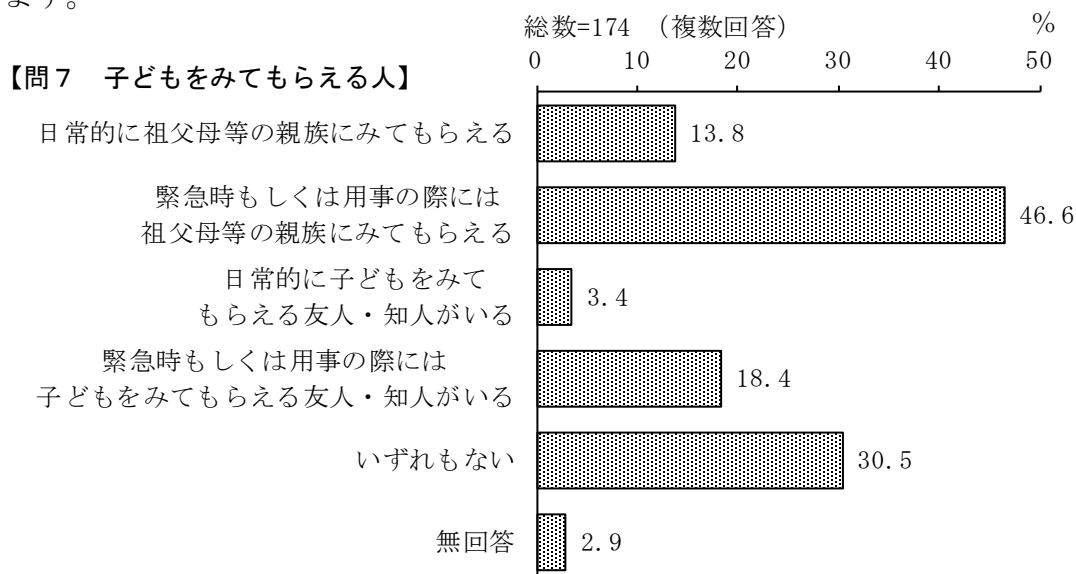
「母親」が 82.2%と最も多く、次いで「父親」が 79.9%、「兄弟姉妹」が 70.7%、「祖父母」が 12.6%となっています。



(8) 子どもをみてもらえる人

問7 日頃、あて名のお子さんをみてもらえる人はいますか。
(あてはまるものすべてに○)

「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 46.6%と最も多く、次いで「いずれもない」が 30.5%、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が 18.4%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 13.8%となっています。

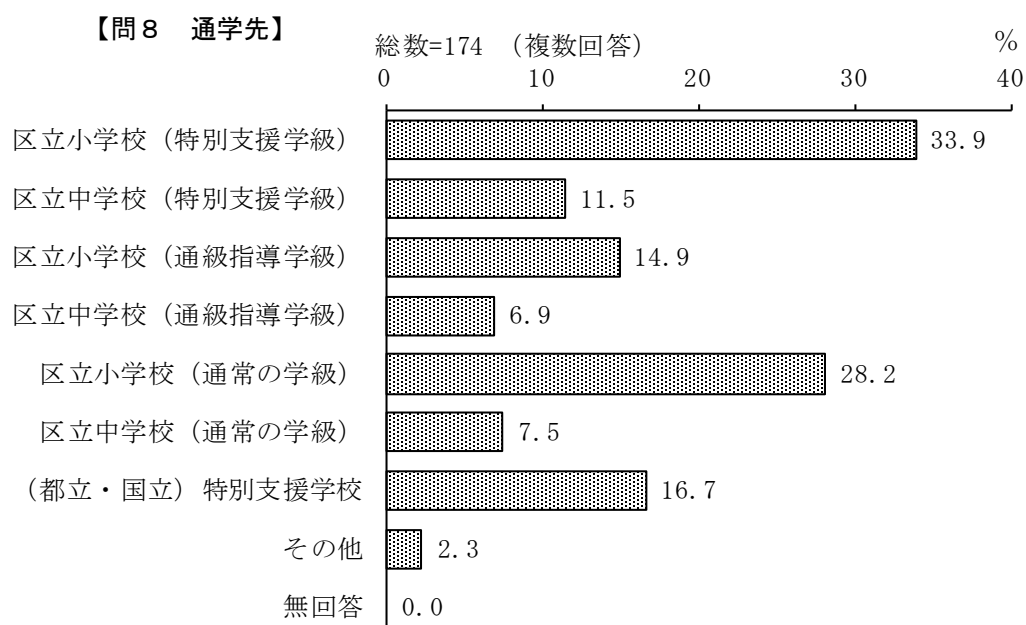


2. 学校の通学、学校生活について

(1) 通学先

問8 平日の昼間、あて名のお子さんは次のうちのどちらに通われていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「区立小学校（特別支援学級）」が 33.9%と最も多く、次いで「区立小学校（通常の学級）」が 28.2%、「(都立・国立) 特別支援学校」が 16.7%、「区立小学校（通級指導学級）」が 14.9%、「区立中学校（特別支援学級）」が 11.5%となっています。



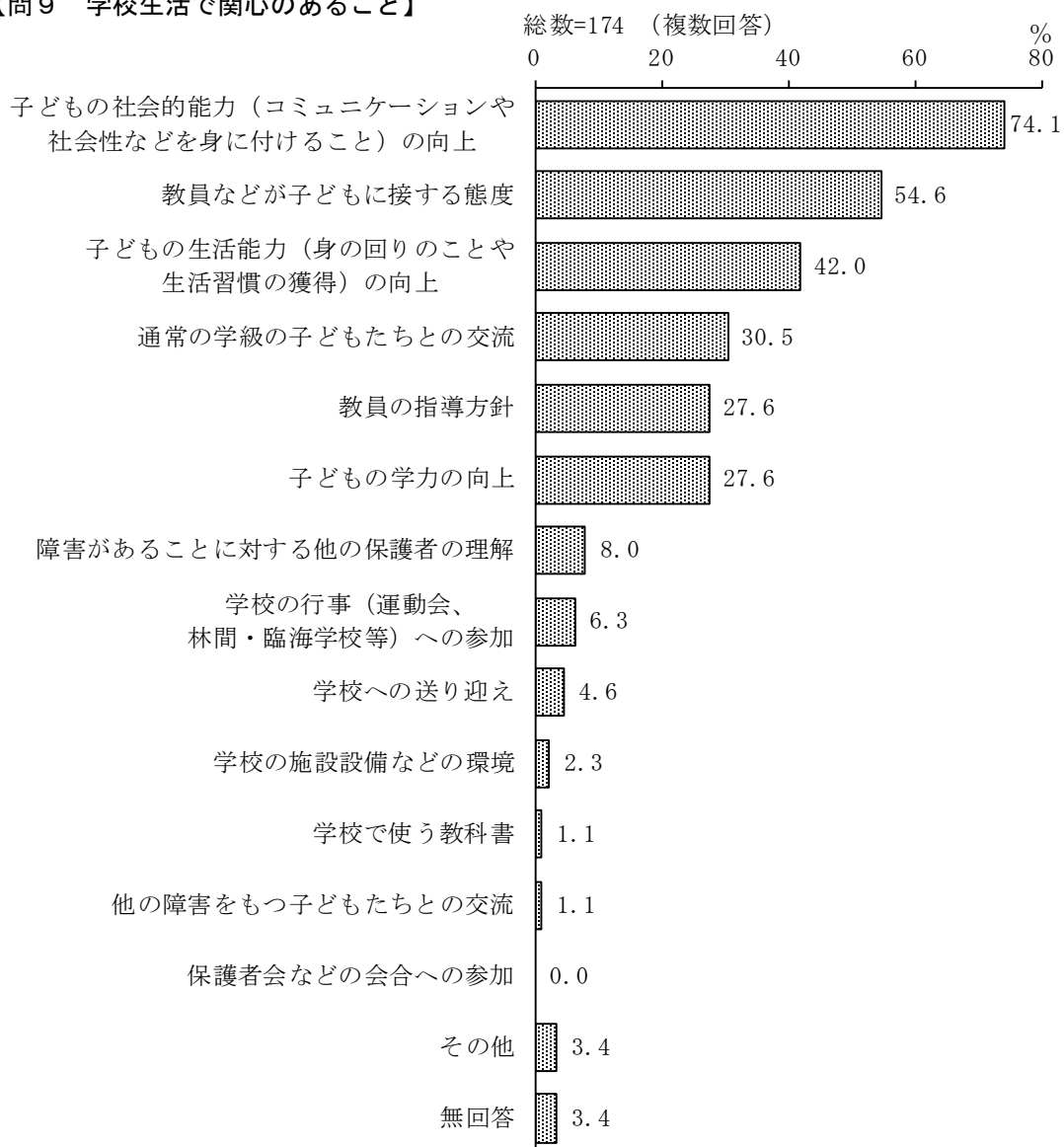
(2) 学校生活で関心のあること

問9 あて名のお子さんが学校生活（通級指導学級の場合はその学級での生活も含みます）を送る上で、保護者として特に関心のあることを次のうちからお選びください。

（特にあてはまるものを3つまで○）

「子どもの社会的能力（コミュニケーションや社会性などを身に付けること）の向上」が74.1%と最も多く、次いで「教員などが子どもに接する態度」が54.6%、「子どもの生活能力（身の回りのことや生活習慣の獲得）の向上」が42.0%、「通常の学級の子どもたちとの交流」が30.5%、「教員の指導方針」と「子どもの学力の向上」がそれぞれ27.6%となっています。

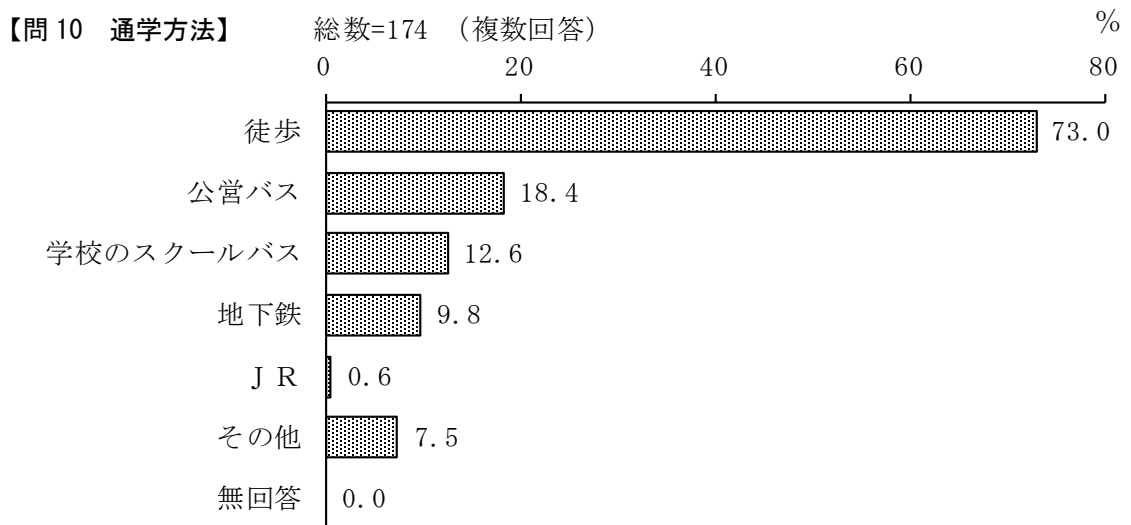
【問9 学校生活で関心のあること】



(3) 通学方法

問10 お子さんは学校への通学（通級指導学級の場合はその学級への通学も含む）をどのように行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

「徒歩」が73.0%と特に多くなっています。次いで「公営バス」が18.4%、「学校のスクールバス」が12.6%、「地下鉄」が9.8%となっています。



(4) 学校生活における子ども自身の不安や悩み

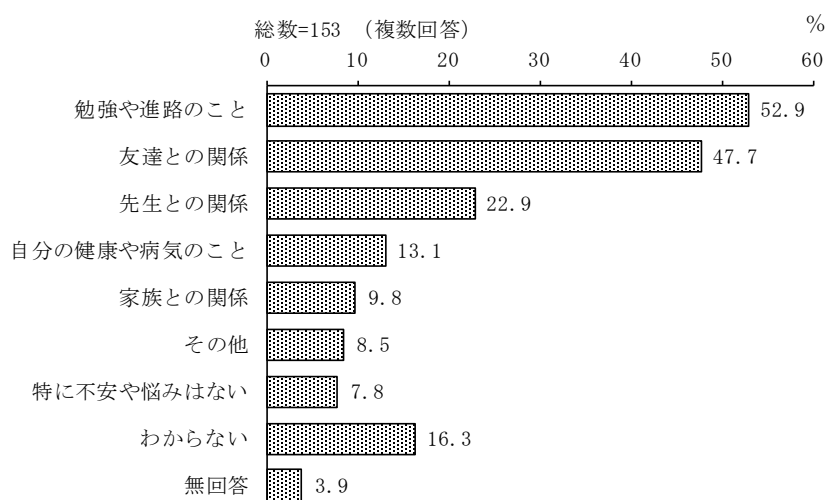
問 11-① 学校生活等において、あて名のお子さん自身の不安や悩みには、どのようなものがありますか（あると思われますか）。（あてはまるものすべてに○）

【お子さん自身が回答できる場合は、ご本人がお選びください。】

①学校生活における子ども自身の不安や悩み（保護者の方等が回答）

「勉強や進路のこと」が 52.9%と最も多く、次いで「友達との関係」が 47.7%、「先生との関係」が 22.9%、「自分の健康や病気のこと」が 13.1%、「家族との関係」が 9.8%となっています。

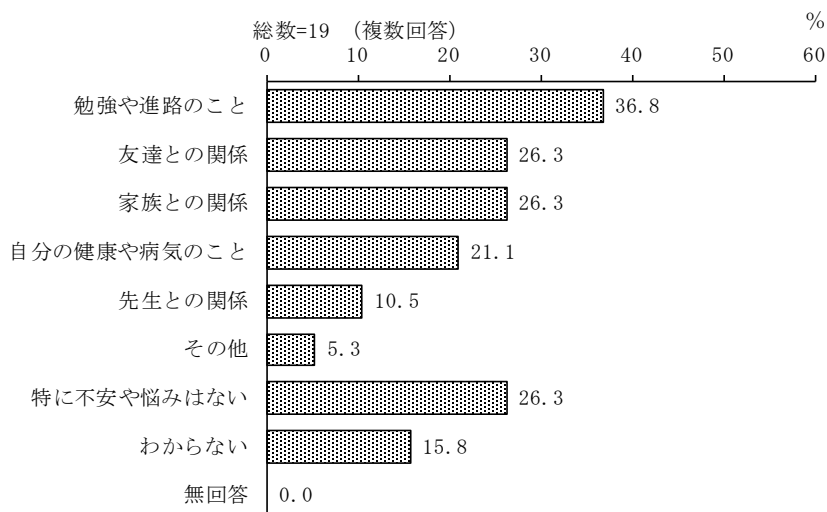
【問 11-①-1 学校生活における子ども自身の不安や悩み（保護者の方等が回答）】



②学校生活における子ども自身の不安や悩み（子ども自身が回答）

「勉強や進路のこと」が 36.8%と最も多く、次いで「友達との関係」と「家族との関係」がそれぞれ 26.3%、「自分の健康や病気のこと」が 21.1%、「先生との関係」が 10.5%となっています。「特に不安や悩みはない」は 26.3%でした。

【問 11-①-2 学校生活における子ども自身の不安や悩み（子ども自身が回答）】

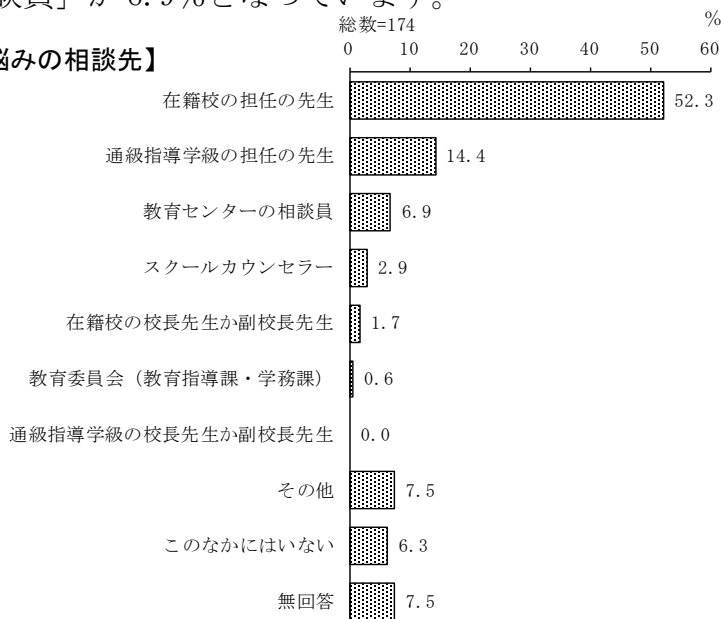


(5) 保護者の不安や悩みの相談先

問 11-② お子さんの学校生活について、保護者として感じる不安や悩みは主にどなたに相談しますか。(1つに○。通級指導学級の場合はその学級への通学も含まれます)

「在籍校の担任の先生」が52.3%と最も多く、次いで「通級指導学級の担任の先生」が14.4%、「教育センターの相談員」が6.9%となっています。

【問 11-② 保護者の不安や悩みの相談先】

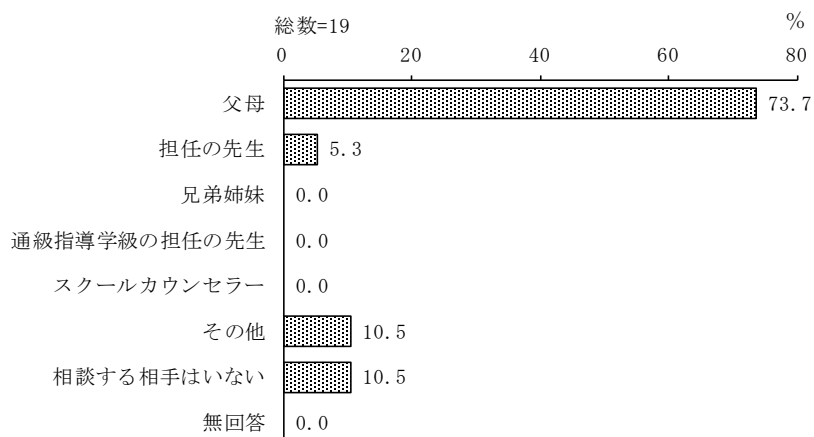


(6) 子ども本人の不安や悩みの相談先

問 11-③ 問 11-①でお子さん自身が回答した方にお聞きします。あて名のお子さん本人は学校生活の不安や悩みを主にどなたに相談しますか。(1つに○)

「父母」が73.7%と特に多くなっています。次いで「担任の先生」が5.3%となっています。「相談する相手はいない」は10.5%でした。「その他」では、「特に相談したくない」などの回答がありました。

【問 11-③ 子ども本人の不安や悩みの相談先】



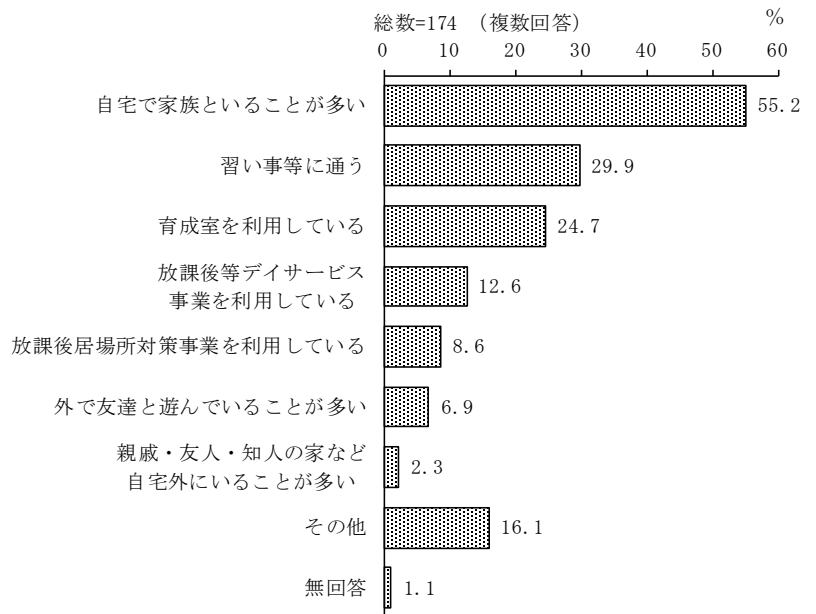
3. 放課後の過ごし方、日々の生活について

(1) 放課後の過ごし方

問 12 あて名のお子さんは、放課後をどのように過ごすことが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

「自宅で家族といることが多い」が 55.2%と最も多く、次いで「習い事等に通う」が 29.9%、「育成室を利用している」が 24.7%、「放課後等デイサービス事業を利用している」が 12.6%、「放課後居場所対策事業を利用している」が 8.6%となっています。「その他」では、「児童館を利用している」、「友だちと遊んでいる」などの回答がありました。

【問 12 放課後の過ごし方】



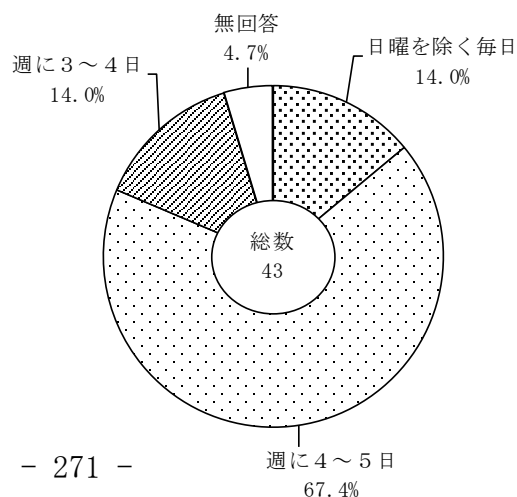
【問 13～15 は、問 12 で「育成室を利用している」を選択した方について伺いました】

(2) 育成室に通う頻度

問 13 週にどのくらい育成室に通っていますか。(1つに○)

「週に 4～5 日」が 67.4%と最も多く、次いで「日曜を除く毎日」が 14.0%、「週に 3～4 日」が 14.0%となっています。

【問 13 育成室に通う頻度】

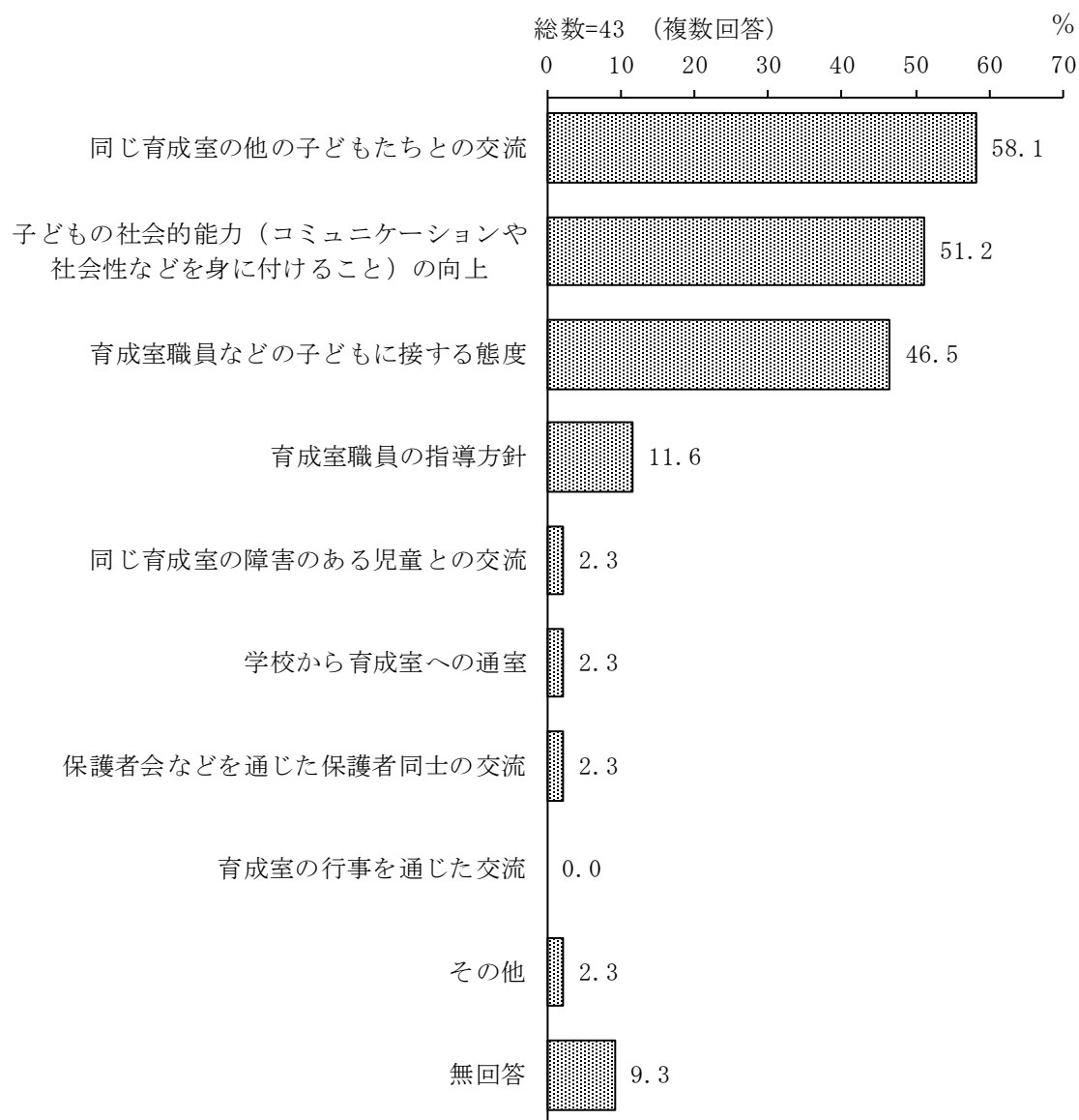


(3) 育成室での生活を送る上で重要なこと

問 14 あて名のお子さんが育成室での生活を送る上で、特に重要なことだと思えることを次のうちからお選びください。(特にあてはまるものを2つまで○)

「同じ育成室の他の子どもたちとの交流」が 58.1%と最も多く、次いで「子どもの社会的能力（コミュニケーションや社会性などを身に付けること）の向上」が 51.2%、「育成室職員などの子どもに接する態度」が 46.5%、「育成室職員の指導方針」が 11.6%となっています。

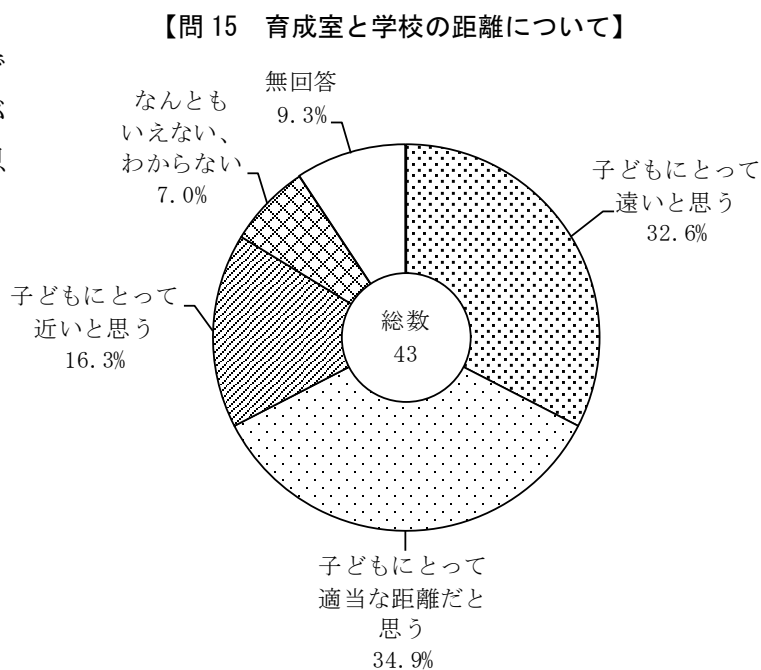
【問 14 育成室での生活を送る上で重要なこと】



(4) 育成室と学校の距離について

問 15 あて名のお子さんの通っている育成室と通学している学校の距離について、次のうちからあてはまるものをお選びください。(1つに○。学校内(敷地内も含む)の育成室に通っている場合は答える必要はありません)

「子どもにとって適切な距離だと思う」が34.9%と最も多く、次いで「子どもにとって遠いと思う」が32.6%、「子どもにとって近いと思う」が16.3%となっています。



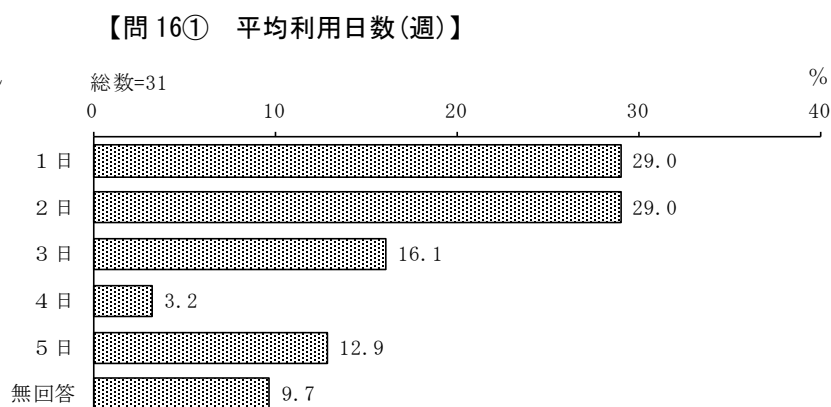
【問 16~18 は、問 12 で「放課後等デイサービス事業を利用している」、「放課後居場所対策事業を利用している」を選択した方に伺いました】

(5) 平均利用日数・利用希望日数

問 16 1週間のうち、実際に利用できている日数は平均何日程度ですか。また、上記サービスを利用したいと思う日数は何日ですか。それぞれについてご記入ください。

①平均利用日数(週)

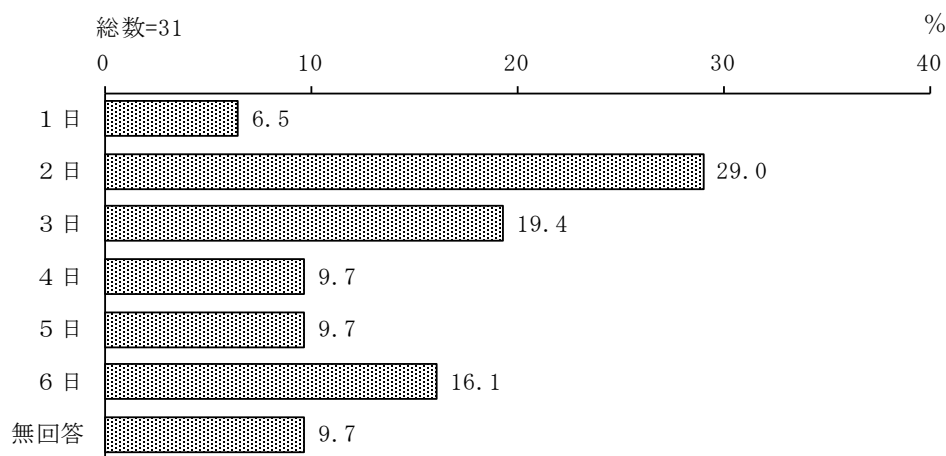
「1日」と「2日」がそれぞれ29.0%と最も多く、次いで「3日」が16.1%、「5日」が12.9%となっています。



②利用希望日数（週）

「2日」が29.0%と最も多く、次いで「3日」が19.4%、「6日」が16.1%、「4日」と「5日」がそれぞれ9.7%となっています。

【問16② 利用希望日数（週）】

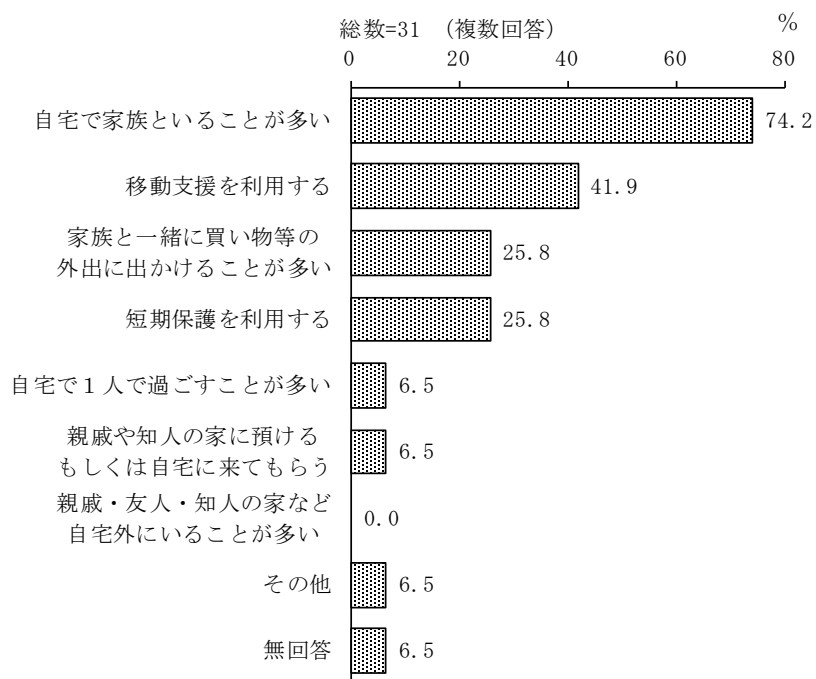


（6）サービス利用が出来ない日の過ごし方

問17 サービスの利用が出来ない日については、どのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

「自宅で家族といることが多い」が74.2%と最も多く、次いで「移動支援を利用する」が41.9%、「家族と一緒に買い物等の外出に出かけることが多い」と「短期保護を利用する」がそれぞれ25.8%となっています。

【問17 サービス利用が出来ない日の過ごし方】

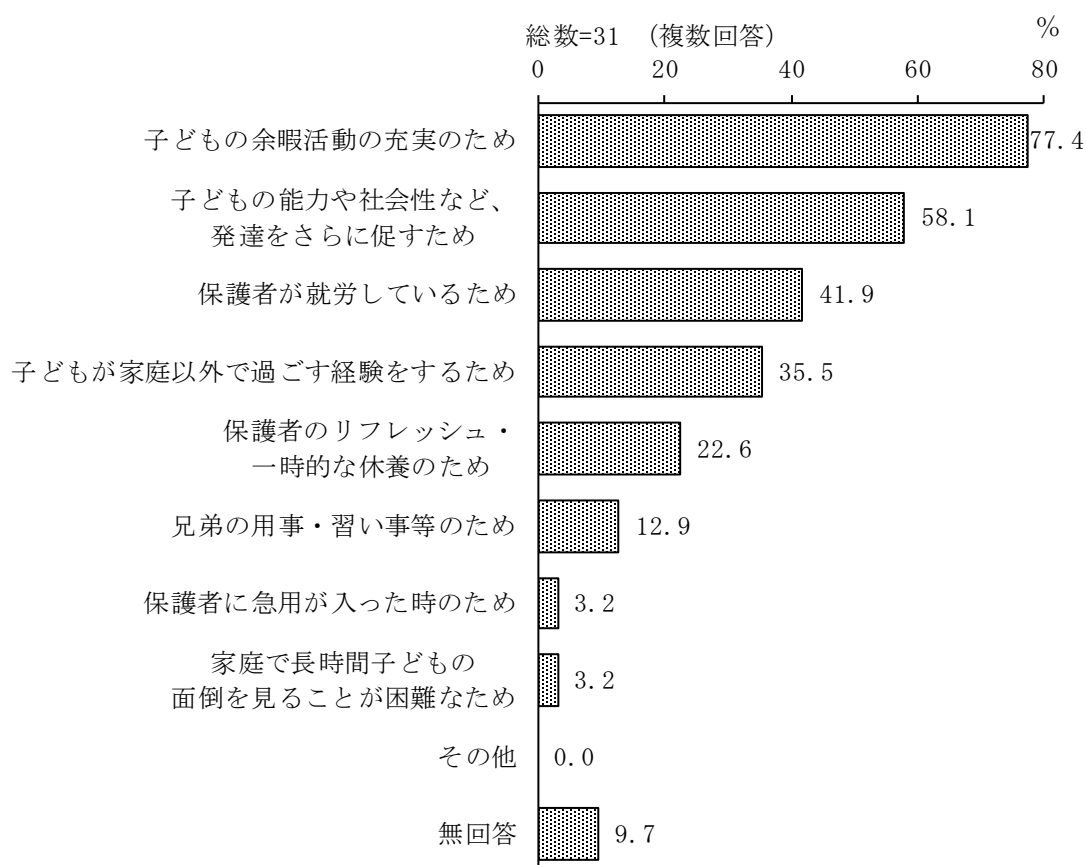


(7) 放課後のサービスを利用したい理由

問 18 これらのサービスを利用したいと考える理由は何ですか。
(特にあてはまるものを3つまで○)

「子どもの余暇活動の充実のため」が77.4%と最も多く、次いで「子どもの能力や社会性など、発達をさらに促すため」が58.1%、「保護者が就労しているため」が41.9%、「子どもが家庭以外で過ごす経験をするため」が35.5%、「保護者のリフレッシュ・一時的な休養のため」が22.6%となっています。

【問 18 放課後のサービスを利用したい理由】

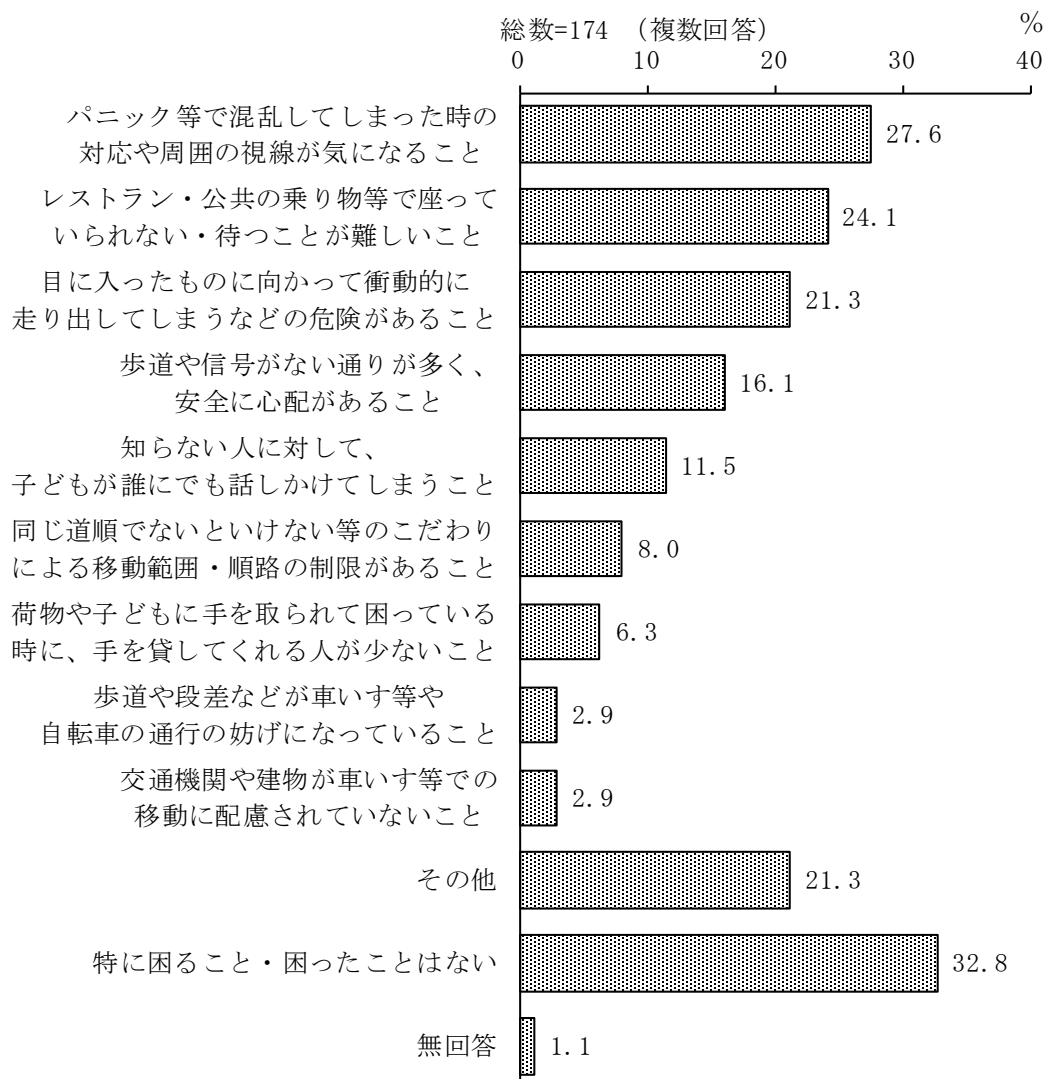


(8) 外出の際に困ること

問19 あなたがあて名のお子さんとの外出の際に、困ること・困ったことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「パニック等で混乱してしまった時の対応や周囲の視線が気になること」が27.6%と最も多く、次いで「レストラン・公共の乗り物等で座ってられない・待つことが難しいこと」が24.1%、「目に入ったものに向かって衝動的に走り出してしまうなどの危険があること」が21.3%、「歩道や信号がない通りが多く、安全に心配があること」が16.1%、「知らない人に対して、子どもが誰にでも話しかけてしまうこと」が11.5%となっています。「特に困ること・困ったことはない」は32.8%でした。「その他」では、「大声を出してしまう」、「興味のあるものの方へ行ってしまう」などの回答がありました。

【問19 外出の際に困ること】



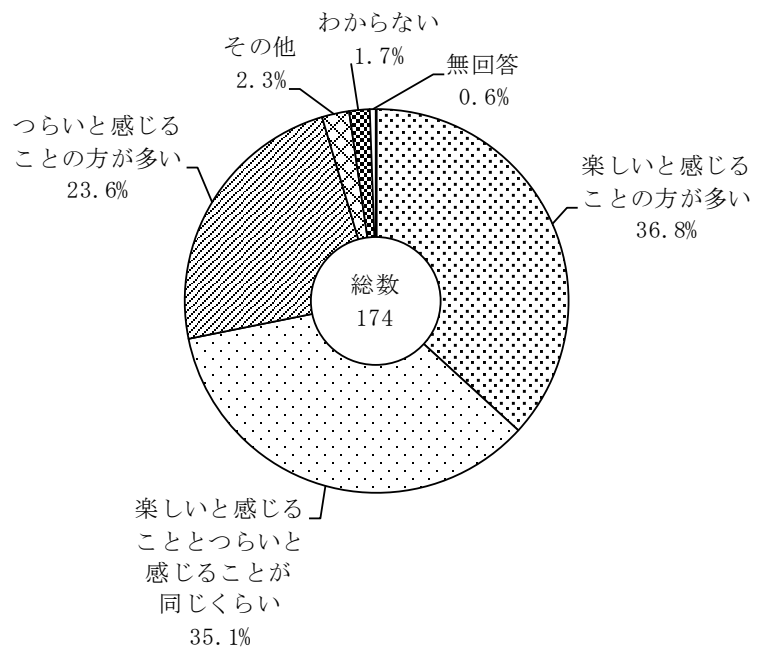
4. 子育てにおける悩み、不安に思っていること、支援策について

(1) 子育ての感じ方

問 20 あなたは、自分にとって子育てを楽しいと感じることが多いと思いますか。それともつらいと感じることが多いと思いますか。(1つに○)

「楽しいと感じることの方が多」が 36.8%と最も多く、次いで「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」が 35.1%、「つらいと感じることの方が多」が 23.6%となっています。

【問 20A 子育ての感じ方】



「つらいと感じることの方が多」 という回答の割合は 12 歳以上で多くなっています。

【問 20B 子育ての感じ方 (年齢別)】

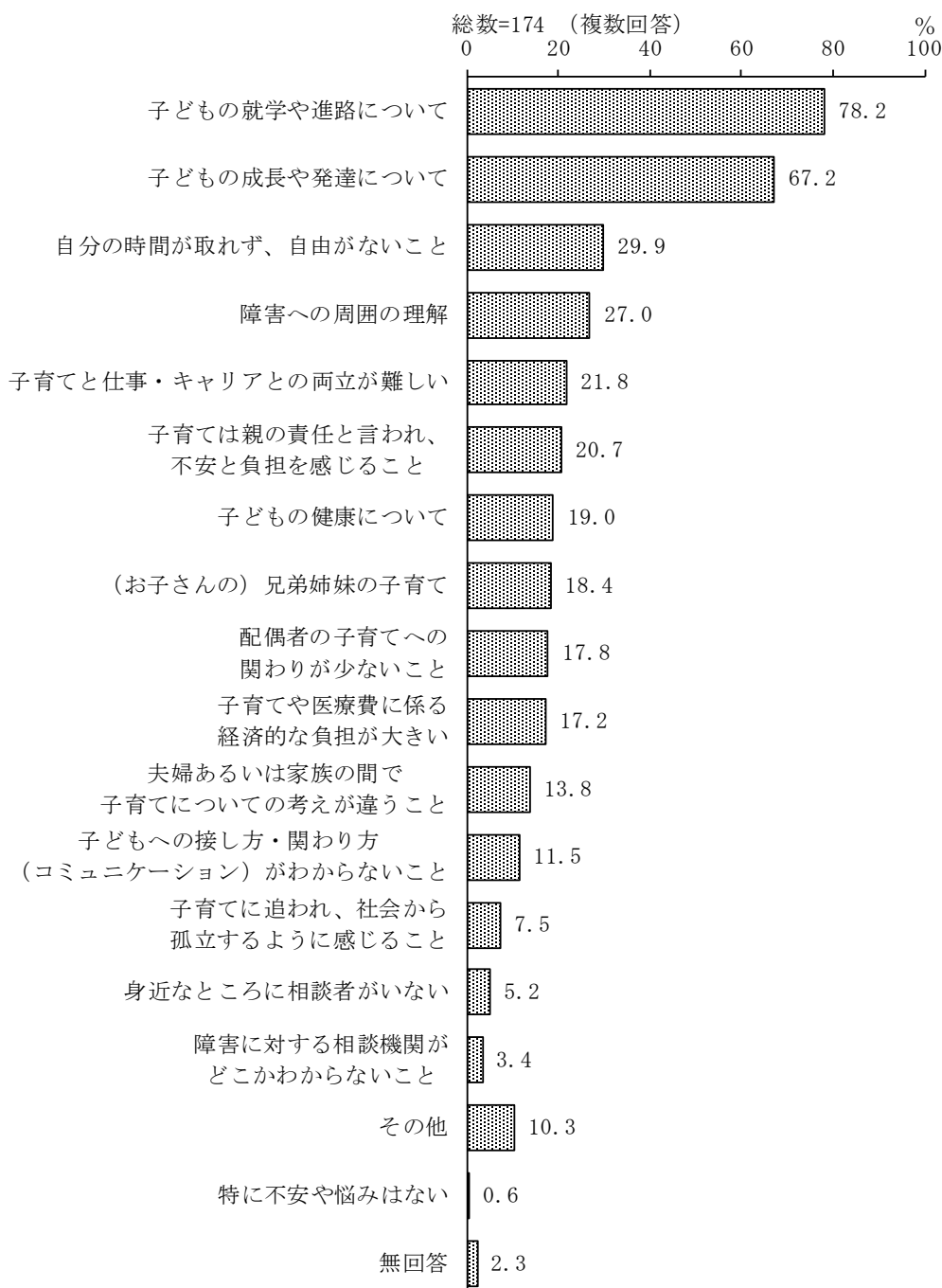
	全体	楽しいと感じることが多い		楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい		つらいと感じることが多い		その他	わからない	無回答			
		実数	割合	実数	割合	実数	割合						
全体	174	64	36.8	61	35.1	41	23.6	4	2.3	3	1.7	1	0.6
年齢別	6～8歳	63	26	41.3	21	33.3	14	22.2	2	3.2	-	-	-
	9～11歳	60	24	40.0	24	40.0	9	15.0	1	1.7	1	1.7	1
	12～14歳	39	11	28.2	13	33.3	13	33.3	1	2.6	1	2.6	-
	15歳以上	9	2	22.2	3	33.3	4	44.4	-	-	-	-	-
	無回答	3	1	33.3	-	-	1	33.3	-	-	1	33.3	-

(2) 子育てにおける悩みや不安

問 21 あなたが感じている子育てにおける悩みや不安について、あてはまるものを選びください。(特にあてはまるものを5つまで○)

「子どもの就学や進路について」が78.2%と最も多く、次いで「子どもの成長や発達について」が67.2%、「自分の時間が取れず、自由がないこと」が29.9%、「障害への周囲の理解」が27.0%、「子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい」が21.8%となっています。

【問 21A 子育てにおける悩みや不安】



「自分の時間が取れず、自由がないこと」という回答の割合は、楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらいが多く、「子育ては親の責任と言われ、不安と負担を感じる」という回答の割合は、つらいと感じることの方が多くで多くなっています。

【問 21B 子育てにおける悩みや不安（子育ての感じ方別）】

上段：実数 下段：割合		全体	自由 自分の 時間が 取れず、	孤 子育 てに 追わ れ、 社会 から	と 子育 てと 仕事 ・キ ャリ ア	感 言子 育 わ れ、 不 安 と 負 担 を	考 子育 え が 違 う こ と	夫 婦 あ る い は 家 族 の 間 で	関 配 偶 者 の 子 育 て へ の	が わ か ら な い こ と (コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン)	子 ど も の 成 長 や 発 達 に つ い て	子 ど も の 就 学 や 進 路 に つ い て
全体		174 100.0	52 29.9	13 7.5	38 21.8	36 20.7	24 13.8	31 17.8	20 11.5	117 67.2	136 78.2	
子 育 て の 感 じ 方	楽しいと感じること が多い	64 100.0	16 25.0	3 4.7	13 20.3	9 14.1	7 10.9	6 9.4	4 6.3	43 67.2	50 78.1	
	楽しいと感じることとつらいと 感じる事が同じくらい	61 100.0	23 37.7	4 6.6	15 24.6	8 13.1	7 11.5	13 21.3	8 13.1	43 70.5	46 75.4	
	つらいと感じること が多い	41 100.0	12 29.3	6 14.6	9 22.0	16 39.0	9 22.0	10 24.4	7 17.1	26 63.4	33 80.5	
	その他	4 100.0	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	3 75.0	4 100.0
	わからない	3 100.0	-	-	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-	1 33.3	2 66.7
	無回答	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	1 100.0

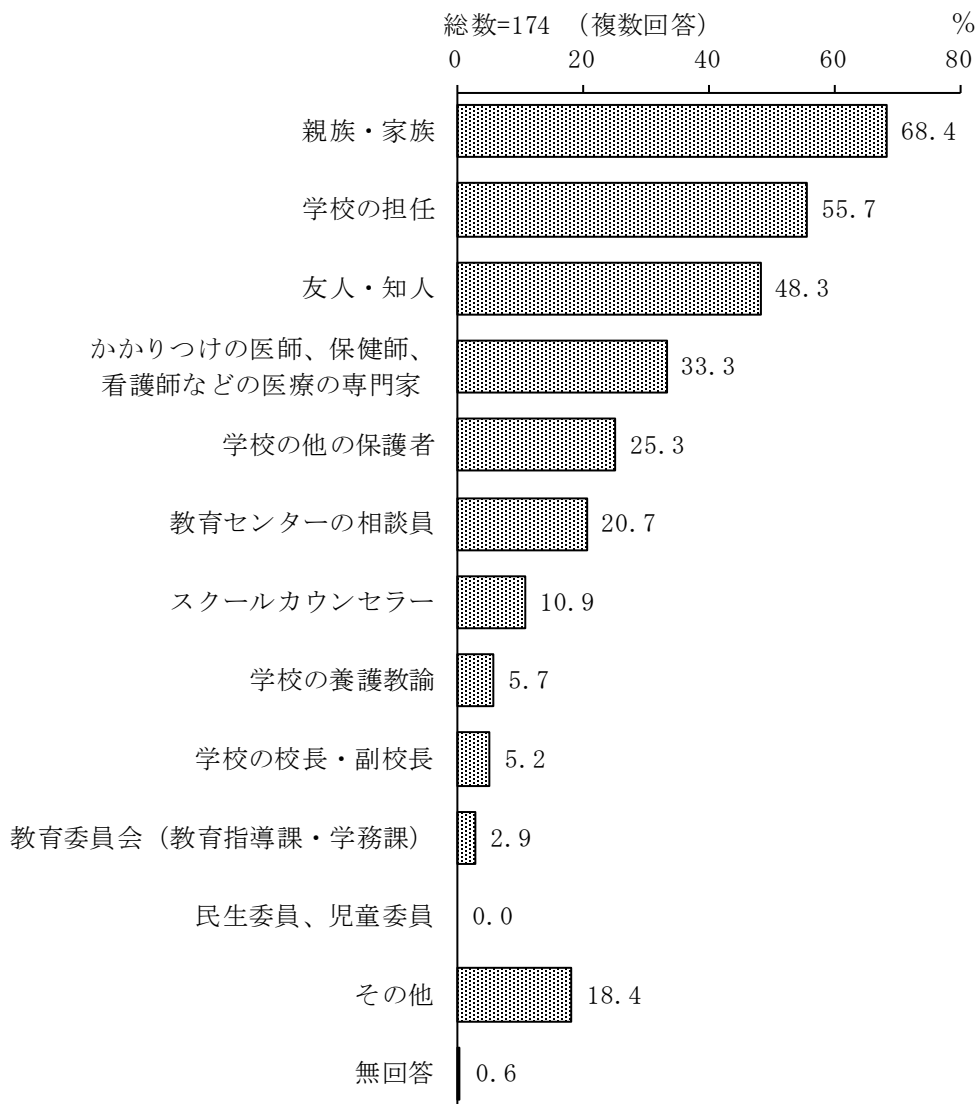
上段：実数 下段：割合		子 ど も の 健 康 に つ い て	兄 弟 姉 妹 さ ん の 子 育 て	障 害 へ の 周 圍 の 理 解	ど 障 害 に 対 し た ら ば 相 談 機 関 が	相 身 談 者 な ど い こ ろ に	経 子 育 て に あ る 医 療 費 に 係 る	そ の 他	特 に 不 安 や 悩 み は な い	無 回 答	
全体		33 19.0	32 18.4	47 27.0	6 3.4	9 5.2	30 17.2	18 10.3	1 0.6	4 2.3	
子 育 て の 感 じ 方	楽しいと感じること が多い	15 23.4	11 17.2	14 21.9	4 6.3	2 3.1	10 15.6	8 12.5	-	1 1.6	
	楽しいと感じることとつらいと 感じる事が同じくらい	12 19.7	12 19.7	15 24.6	1 1.6	1 1.6	9 14.8	6 9.8	-	2 3.3	
	つらいと感じること が多い	5 12.2	8 19.5	14 34.1	1 2.4	6 14.6	11 26.8	4 9.8	-	1 2.4	
	その他	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	-	-	-	-	-
	わからない	-	-	1 33.3	-	-	-	-	-	1 33.3	-
	無回答	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-

(3) 子育てについての相談先

問 22 あて名のお子さんの子育てについて相談する場合、どなたに相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

「親族・家族」が 68.4%と最も多く、次いで「学校の担任」が 55.7%、「友人・知人」が 48.3%、「かかりつけの医師、保健師、看護師などの医療の専門家」が 33.3%、「学校の他の保護者」が 25.3%となっています。「その他」では、「通級学級の担当教員」、「放課後等デイサービスの職員」、「療育先の指導員」などの回答がありました。

【問 22 子育てについての相談先】



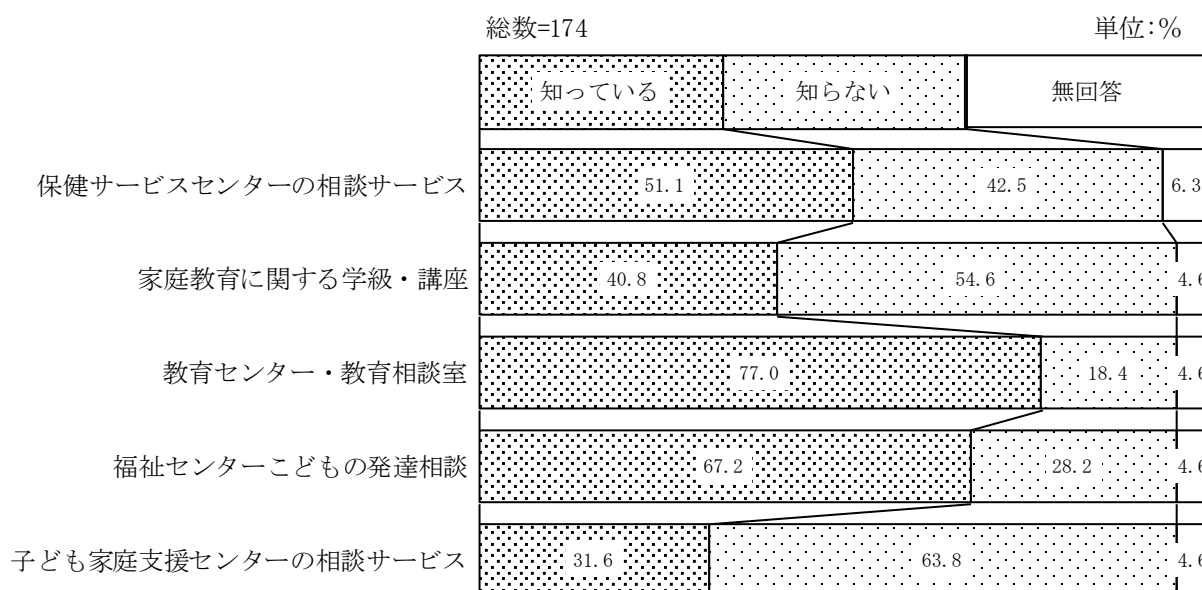
(4) 子育て支援サービスの認知状況・利用状況・利用意向

問 23 子育てに関する相談等の支援サービスで、知っているものやこれまでに利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをお答えください。
各サービスごとに、A～Cのそれぞれについて、「はい」、「いいえ」のどちらかに○をつけてください。

①子育て支援サービスの認知状況

「知っている」という回答は、「教育センター・教育相談室」が77.0%と最も多く、次いで「福祉センターこどもの発達相談」が67.2%、「保健サービスセンターの相談サービス」が51.1%、「家庭教育に関する学級・講座」が40.8%、「子ども家庭支援センターの相談サービス」が31.6%となっています。

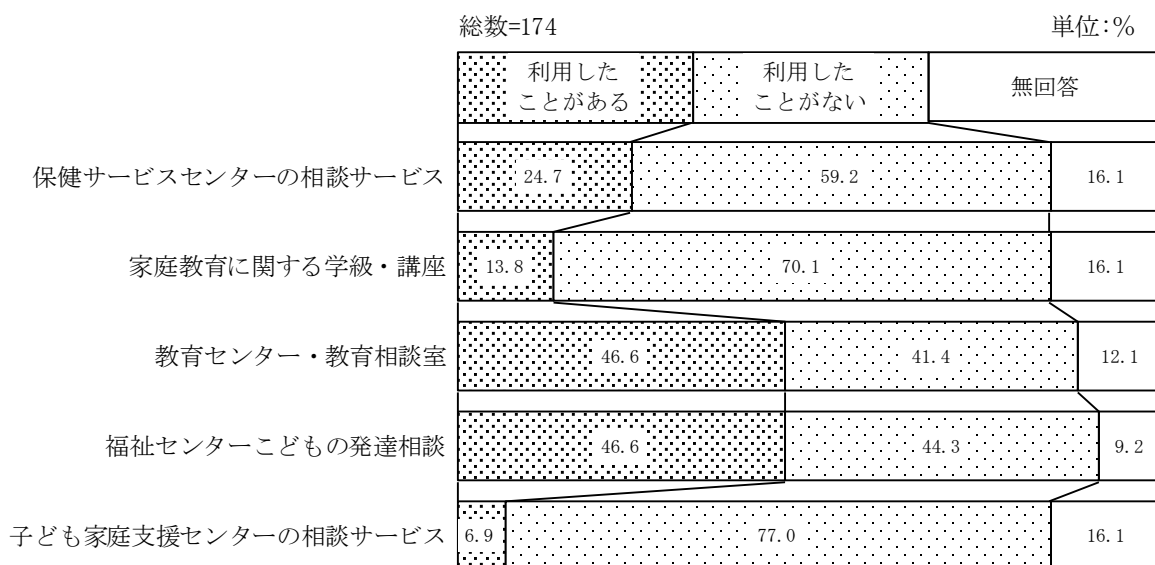
【問 23① 子育て支援サービスの認知状況】



②子育て支援サービスの利用状況

「利用したことがある」という回答は、「教育センター・教育相談室」と「福祉センターこどもの発達相談」がそれぞれ46.6%と最も多く、次いで「保健サービスセンターの相談サービス」が24.7%、「家庭教育に関する学級・講座」が13.8%、「子ども家庭支援センターの相談サービス」が6.9%となっています。

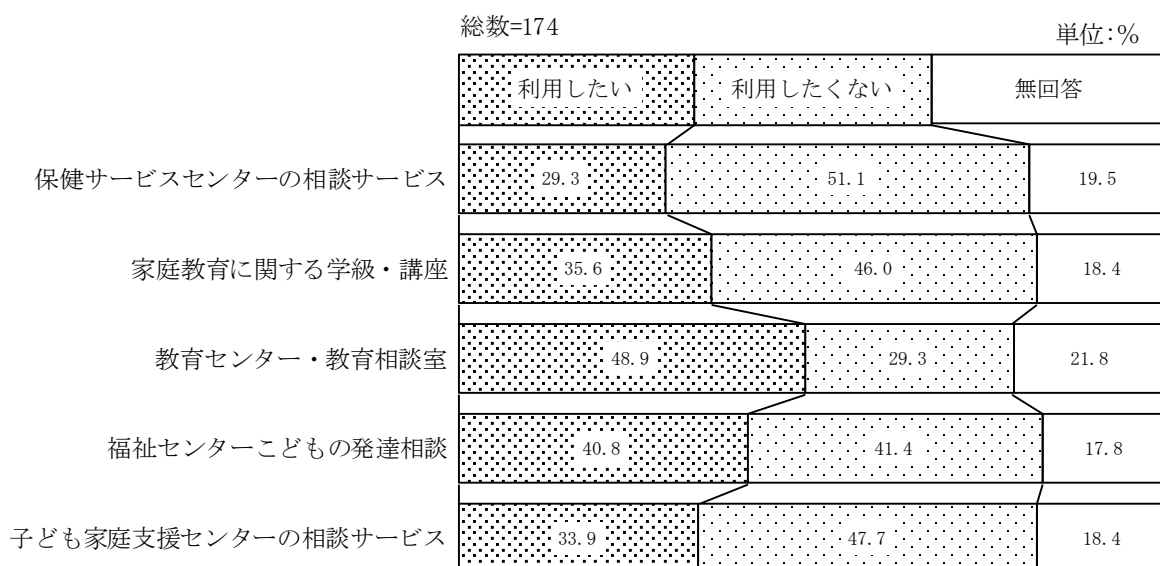
【問 23② 子育て支援サービスの利用状況】



③子育て支援サービスの利用希望

「利用したい」という回答は、「教育センター・教育相談室」が48.9%と最も多く、次いで「福祉センターこどもの発達相談」が40.8%、「家庭教育に関する学級・講座」が35.6%、「子ども家庭支援センターの相談サービス」が33.9%、「保健サービスセンターの相談サービス」が29.3%となっています。

【問 23③ 子育て支援サービスの利用希望】

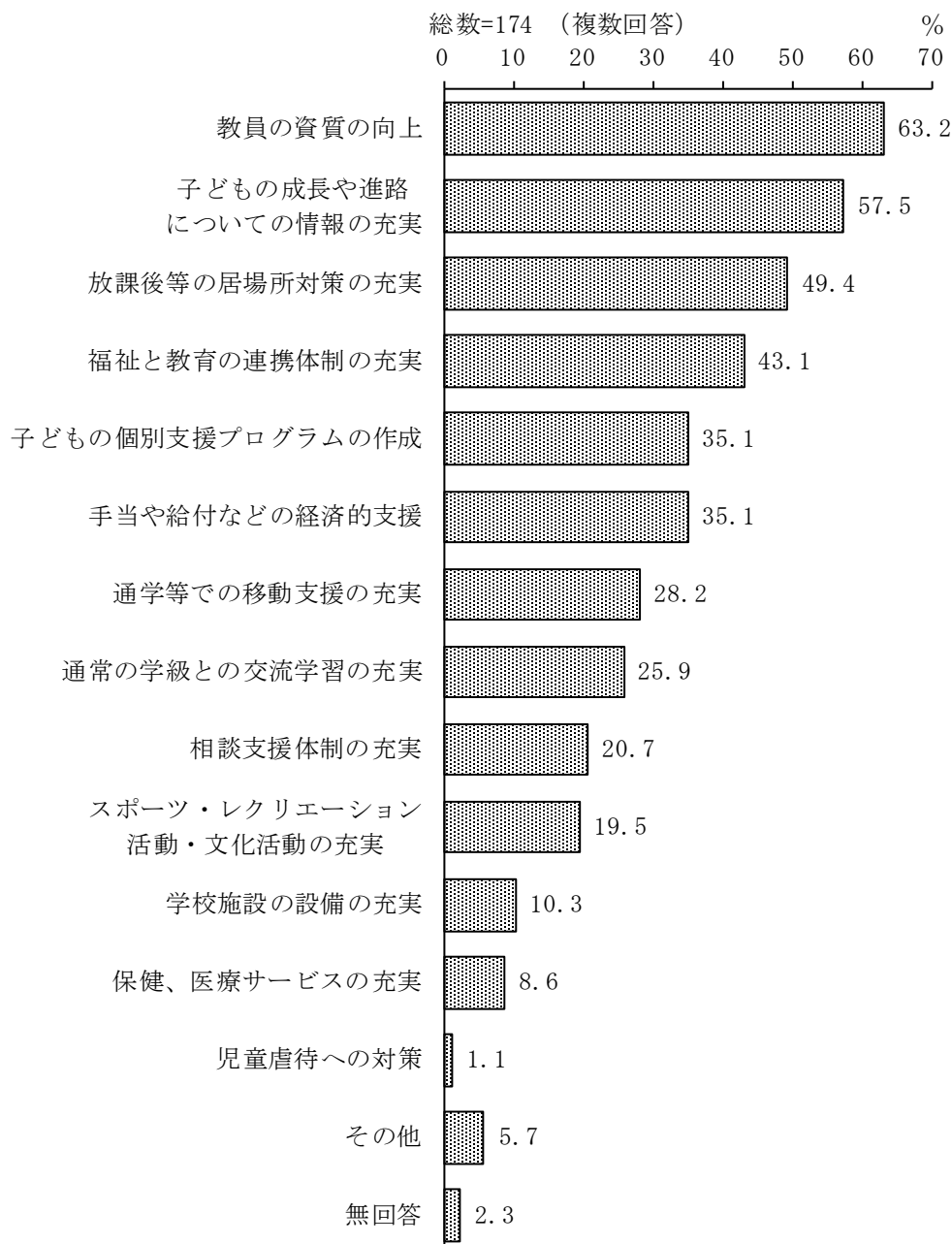


(5) 特別な支援を必要とする子どもを持つ家庭への支援策

問 24 特別な支援を必要とするお子さんを持つ家庭に対する支援策として、充実させてほしいものや取り組んでほしいものについて、次のうちからお選びください。
(特にあてはまるものを5つまで○)

「教員の資質の向上」が63.2%と最も多く、次いで「子どもの成長や進路についての情報の充実」が57.5%、「放課後等の居場所対策の充実」が49.4%、「福祉と教育の連携体制の充実」が43.1%、「子どもの個別支援プログラムの作成」と「手当や給付などの経済的支援」がそれぞれ35.1%となっています。

【問 24A 特別な支援を必要とする子どもを持つ家庭への支援策】



「放課後等の居場所対策の充実」という回答の割合は、区立小学校・中学校の特別支援学級と都立・国立の特別支援学校で多くなっています。また、「通学等での移動支援の充実」という回答の割合は、都立・国立の特別支援学校で多くなっています。

【問 24B 特別な支援を必要とする子どもを持つ家庭への支援策（通学先別）】

上段：実数 下段：割合		全体	教員の資質の向上	福祉と教育の充実	通常の学習の充実	放課後等の居場所対策の充実	文化活動の充実	スポーツ・レクリエーション	子どもプログラムの個別作成	進路情報の充実	子どもの成長の支援	
全体		174 100.0	110 63.2	75 43.1	45 25.9	86 49.4	34 19.5	61 35.1	100 57.5			
通学先	区立小学校 (特別支援学級)	59 100.0	35 59.3	28 47.5	27 45.8	38 64.4	8 13.6	22 37.3	33 55.9			
	区立中学校 (特別支援学級)	20 100.0	14 70.0	6 30.0	11 55.0	12 60.0	9 45.0	5 25.0	14 70.0			
	区立小学校 (通級指導学級)	26 100.0	19 73.1	12 46.2	2 7.7	5 19.2	4 15.4	11 42.3	20 76.9			
	区立中学校 (通級指導学級)	12 100.0	9 75.0	4 33.3	-	1 8.3	1 8.3	4 33.3	9 75.0			
	区立小学校 (通常の学級)	49 100.0	33 67.3	24 49.0	3 6.1	13 26.5	8 16.3	21 42.9	27 55.1			
	区立中学校 (通常の学級)	13 100.0	7 53.8	4 30.8	1 7.7	2 15.4	-	7 53.8	10 76.9			
	(都立・国立) 特別支援学校	29 100.0	16 55.2	11 37.9	3 10.3	20 69.0	9 31.0	7 24.1	13 44.8			
	その他	4 100.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	-	1 25.0	1 25.0			
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *		

上段：実数 下段：割合		相談支援体制の充実	児童虐待への対策	学校施設の充実	保健、医療サービスの充実	手当や給付などの経済的支援	移動学等での支援の充実	その他	無回答
全体		36 20.7	2 1.1	18 10.3	15 8.6	61 35.1	49 28.2	10 5.7	4 2.3
通学先	区立小学校 (特別支援学級)	10 16.9	1 1.7	6 10.2	3 5.1	23 39.0	17 28.8	2 3.4	2 3.4
	区立中学校 (特別支援学級)	2 10.0	1 5.0	2 10.0	1 5.0	7 35.0	3 15.0	2 10.0	-
	区立小学校 (通級指導学級)	12 46.2	-	1 3.8	2 7.7	5 19.2	4 15.4	4 15.4	-
	区立中学校 (通級指導学級)	5 41.7	-	-	1 8.3	3 25.0	-	-	1 8.3
	区立小学校 (通常の学級)	15 30.6	-	5 10.2	5 10.2	13 26.5	8 16.3	5 10.2	1 2.0
	区立中学校 (通常の学級)	6 46.2	-	-	2 15.4	4 30.8	-	-	1 7.7
	(都立・国立) 特別支援学校	1 3.4	-	5 17.2	5 17.2	14 48.3	19 65.5	1 3.4	-
	その他	1 25.0	-	-	-	1 25.0	2 50.0	-	-
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *

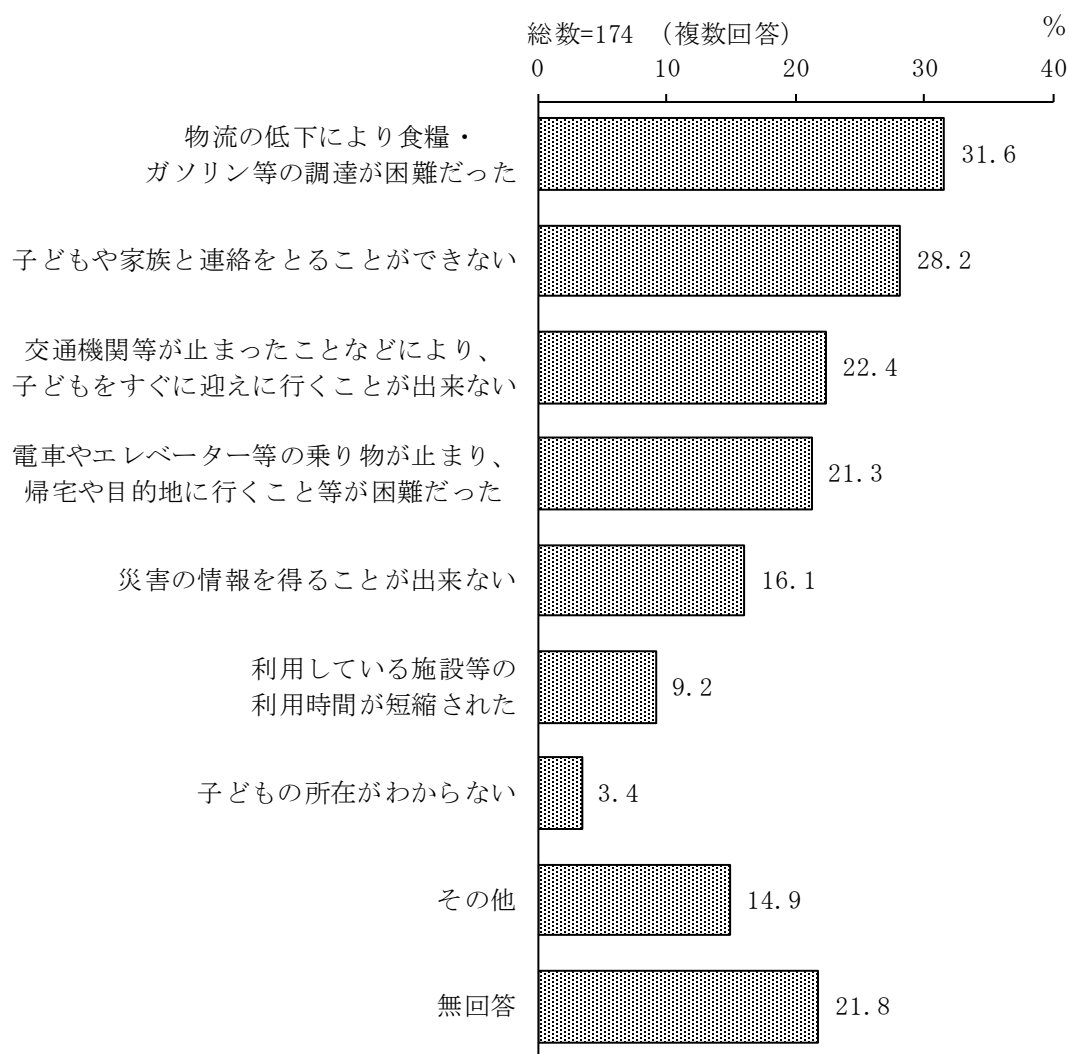
5. 災害対策について

(1) 東日本大震災において困ったこと

問 25 東日本大震災（平成 23 年 3 月 11 日）において、あなたが困ったことは何ですか（あてはまるものすべてに○）

「物流の低下により食糧・ガソリン等の調達が困難だった」が 31.6%と最も多く、次いで「子どもや家族と連絡をとることができない」が 28.2%、「交通機関等が止まったことなどにより、子どもをすぐに迎えに行くことが出来ない」が 22.4%、「電車やエレベーター等の乗り物が止まり、帰宅や目的地に行くこと等が困難だった」が 21.3%、「災害の情報を得ることが出来ない」が 16.1%となっています。「その他」では、「子どもが怖がった」、「家の中の片づけが大変だった」などの回答がありました。

【問 25 東日本大震災において困ったこと】

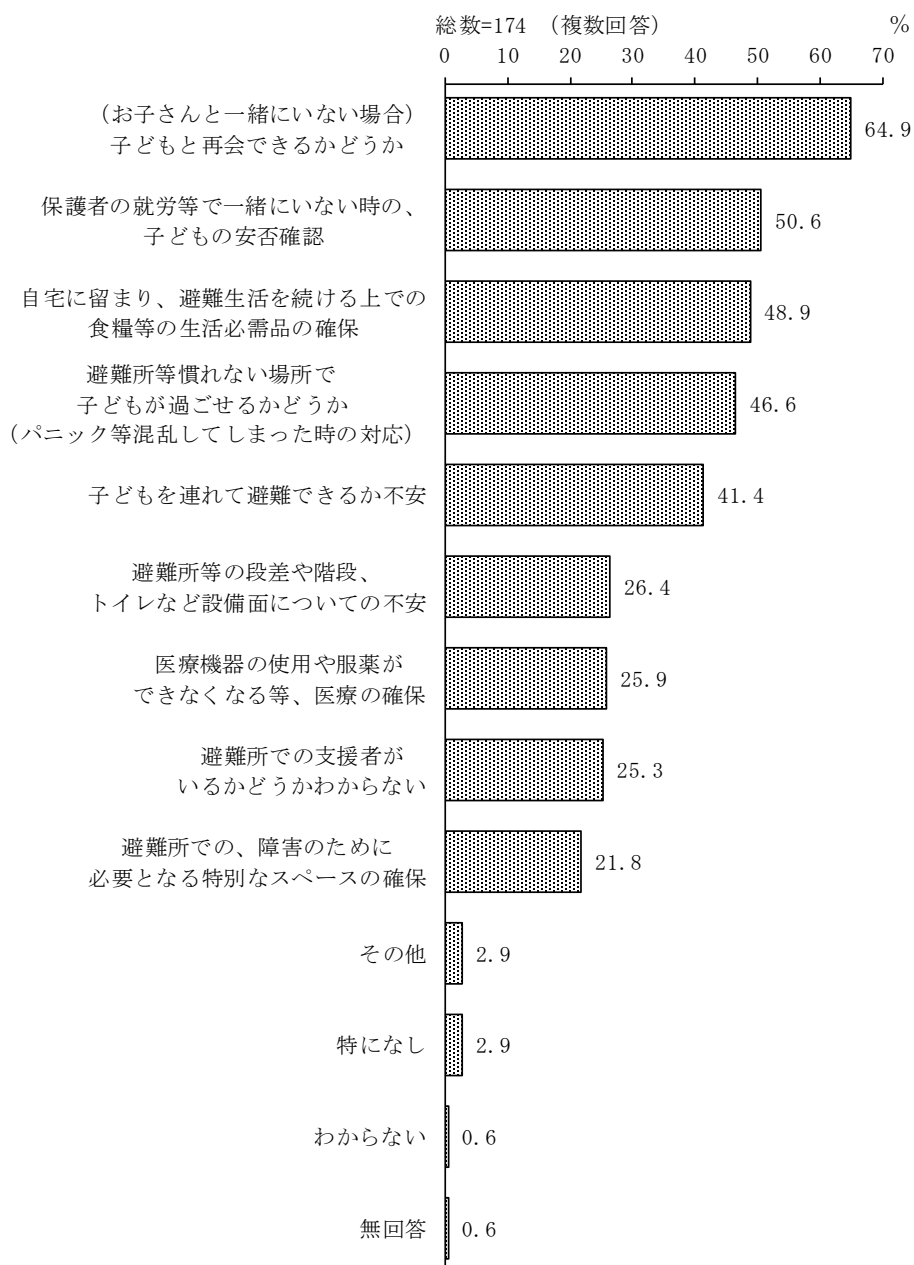


(2) 災害に関して不安に感じていること

問 26 地震や火事などの災害に関してあなたが不安に感じていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「(お子さんと一緒にいない場合) 子どもと再会できるかどうか」が 64.9%と最も多く、次いで「保護者の就労等で一緒にいない時の、子どもの安否確認」が 50.6%、「自宅に留まり、避難生活をする上での食糧等の生活必需品の確保」が 48.9%、「避難所等慣れない場所で子どもが過ごせるかどうか (パニック等混乱してしまった時の対応)」が 46.6%、「子どもを連れて避難できるか不安」が 41.4%となっています。

【問 26 災害に関して不安に感じていること】



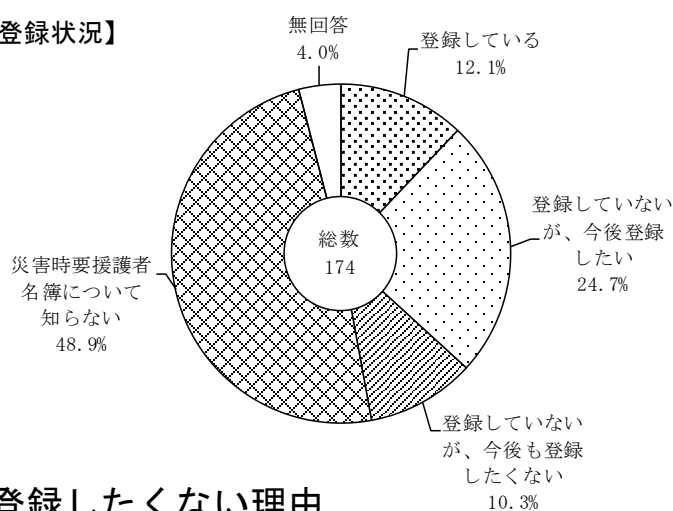
(3) 災害時要援護者名簿への登録状況

問 27-① 災害時要援護者名簿についてお聞きします。あなたは現在登録をしていますか。(1つに○)

「災害時要援護者名簿について知らない」が48.9%と最も多く、次いで「登録していないが、今後登録したい」が24.7%、「登録している」が12.1%、「登録していないが、今後登録したくない」が10.3%となっています。

【問 27-① 災害時要援護者名簿への登録状況】

※災害時要援護者名簿については
48 ページをご参照ください。

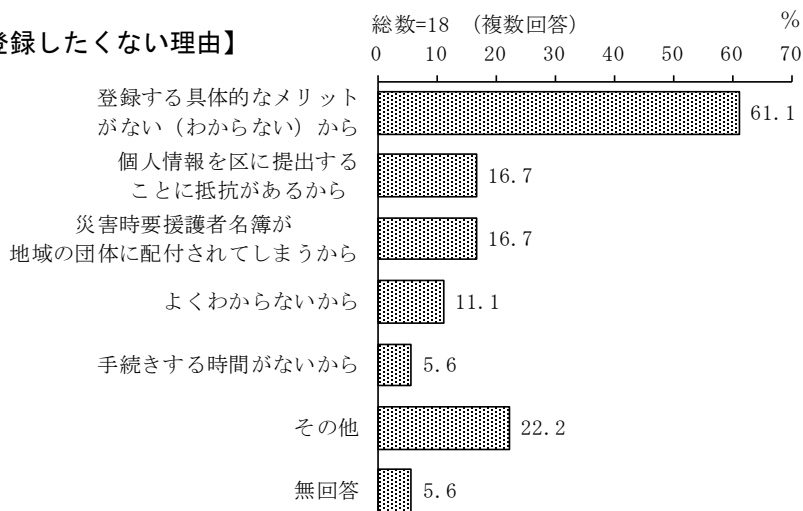


(4) 災害時要援護者名簿に登録したくない理由

問 27-② 問 27-①で「登録していないが、今後も登録したくない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「登録する具体的なメリットがない(わからない)から」が61.1%と最も多く、次いで「個人情報情報を区に提出することに抵抗があるから」と「災害時要援護者名簿が地域の団体に配付されてしまうから」がそれぞれ16.7%、「よくわからないから」が11.1%となっています。「その他」では、「自力で避難できるから」などの回答がありました。

【問 27-② 災害時要援護者名簿に登録したくない理由】



6. 生活のしづらさについて

(1) 日々の生活の中で感じるバリアについて

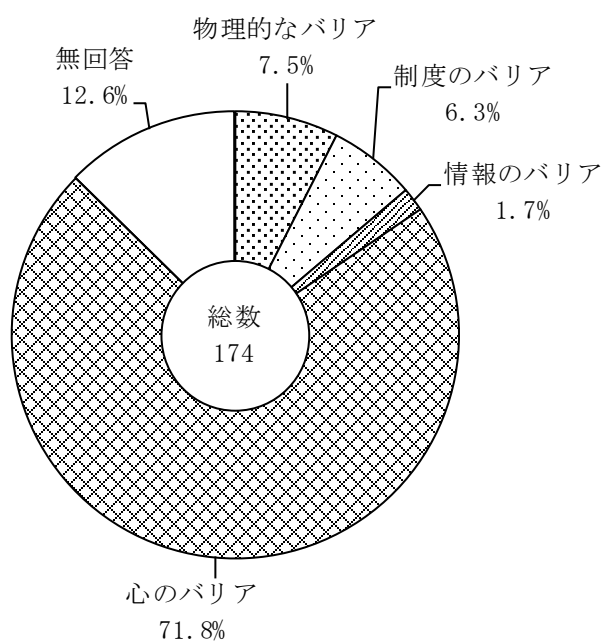
問 28 日々の生活の中で感じる生活のしづらさについてお聞きします。

障害者が生活する中で不便と感じる事柄について、以下の4つのバリア(=“不便なこと・困ること”)に分けられるとされています。日々の生活の中で、あなたはどのバリアを1番強く感じますか。いずれか1つの番号を選び、○をつけてください。

※ 4つのバリアについては、51 ページをご参照ください。

「心のバリア」が71.8%と特に多くなっています。次いで「物理的なバリア」が7.5%、「制度のバリア」が6.3%、「情報のバリア」が1.7%となっています。

【問 28 日々の生活の中で感じるバリアについて】

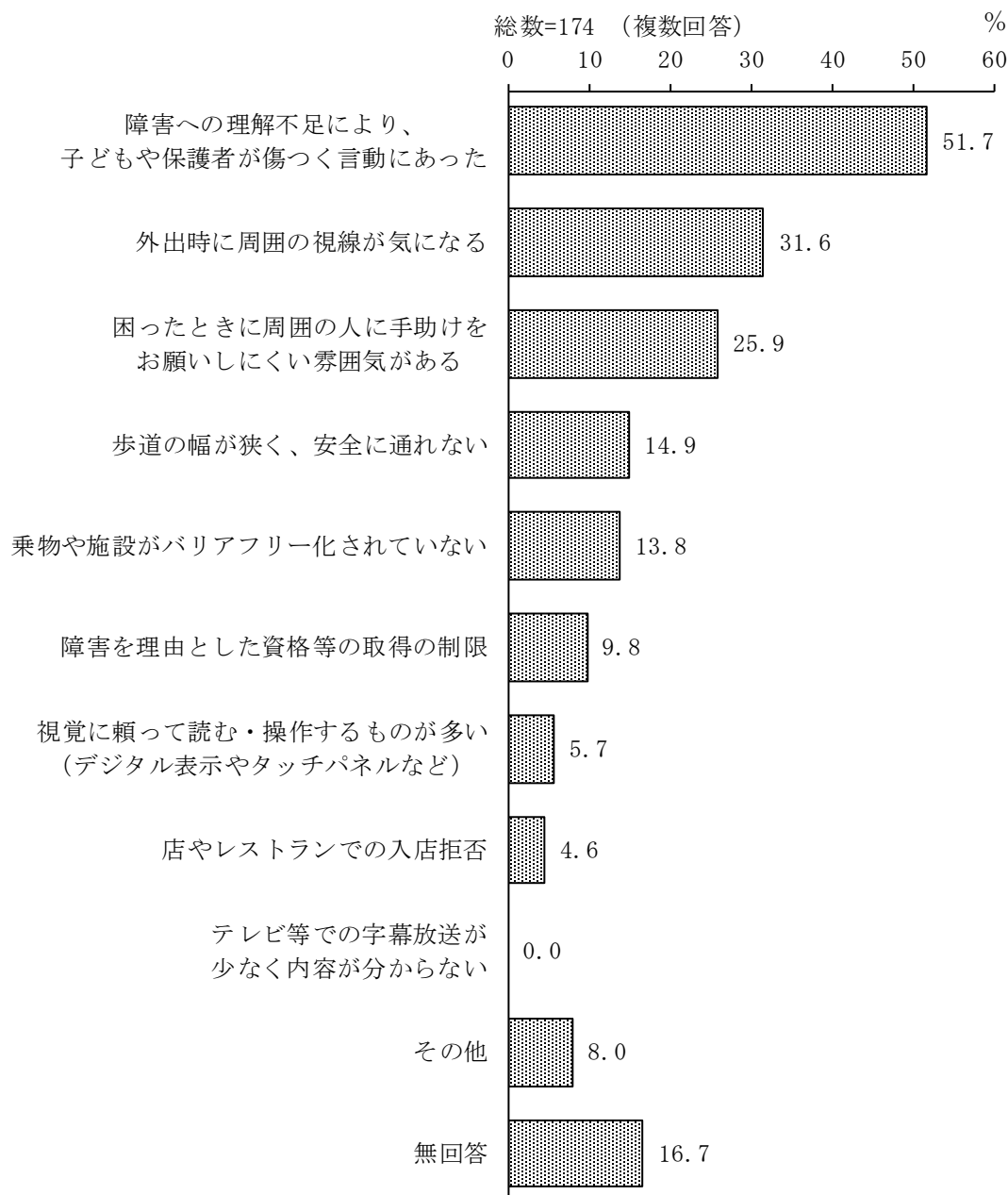


(2) 障害者に対する理解不足や生活のしづらさを感じる理由

問 29 どのような理由で障害者に対する理解不足や生活のしづらさを感じますか。
(あてはまるものすべてに○)

「障害への理解不足により、子どもや保護者が傷つく言動にあった」が 51.7%と最も多く、次いで「外出時に周囲の視線が気になる」が 31.6%、「困ったときに周囲の人に手助けをお願いしにくい雰囲気がある」が 25.9%、「歩道の幅が狭く、安全に通れない」が 14.9%、「乗物や施設がバリアフリー化されていない」が 13.8%となっています。

【問 29 障害者に対する理解不足や生活のしづらさを感じる理由】

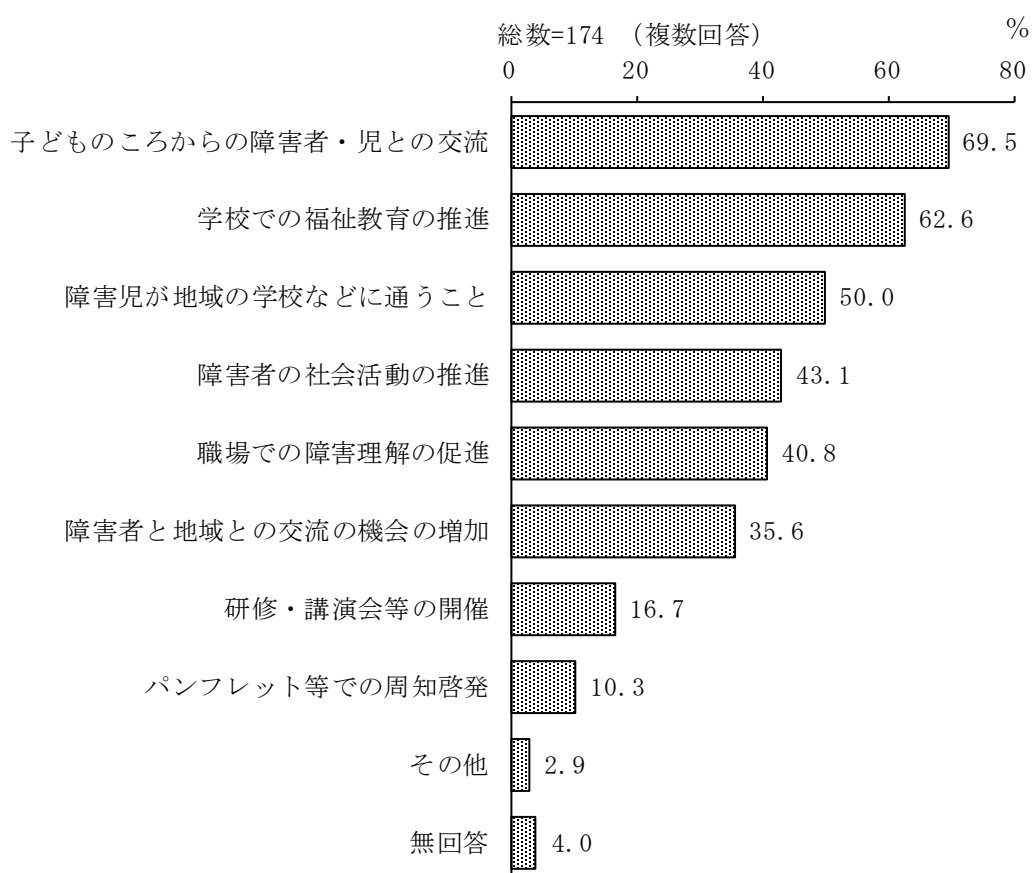


(3) 障害理解を進めていくために必要なこと

問 30 どのように障害理解を進めていくべきだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「子どものころからの障害者・児との交流」が69.5%と最も多く、次いで「学校での福祉教育の推進」が62.6%、「障害児が地域の学校などに通うこと」が50.0%、「障害者の社会活動の推進」が43.1%、「職場での障害理解の促進」が40.8%となっています。

【問 30 障害理解を進めていくために必要なこと】



7. 自由意見

問 31 この調査を通じて選択肢やその他の欄等だけでは表現しきれなかったこと、ご意見などがありましたら、自由にお書きください。

自由意見は70件ありました。「教育・療育」についての意見が61.4%と最も多く、次いで「福祉」が32.9%、「障害理解」が31.4%、「情報・相談」と「行政」がそれぞれ15.7%となっています。

【問 31 自由意見】

	総数	教育・療育	福祉	障害理解	情報・相談	行政	障害・疾患	生活環境	将来	保健・医療	雇用・就労	その他
自由意見	70 100.0	43 61.4	23 32.9	22 31.4	11 15.7	11 15.7	6 8.6	3 4.3	3 4.3	2 2.9	2 2.9	10 14.3

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

①教育・療育

「小学校の特別支援と、中学のそれと、差があるらしい。中学も、交流学习を積極的に行ってほしい。また、個別の学習も徹底してやっていただきたい。」（女性／知的障害）

「特別支援学級の小学校を増やしてほしい。今は学区外から通学しているので、できれば自分の学区の小学校に特別支援学級があれば良い。」（男性／知的障害）

「特別支援学級を受けもつ先生の質を上げて下さい。全ての先生がとは言いませんが、子供の特性も見きわめられず、学力レベルに合った指導が行われていません。先生のレベルを上げるための教育に税金を使って下さい。」（女性／知的障害）

「通学支援が区内の特支のみ10回に限定されています。養育に費用がかかるのに送迎のため就労もままなりません。職場にも子どもにも夫にも学校にも育成にも時間がないために『すいません』とあやまることばかりです。」（女性／知的障害）

「中学校支援級もっと増やして下さい。また現在、幼→小→中→高との一貫性をもったサポートが民間でしかなく、経済的負担がとても大きいです。もう少し現状に即した支援をして頂けることを願います。公的支援を望みます。」（女性／手帳なし）

「来春、息子は中学を卒業します。中学卒業後の支援や体制が見えづらく、中卒後の進路が手さぐりです。普通に進学して大丈夫か不安です。」（男性／手帳なし）

②福祉

「成年後見人制度の充実。使い込みなどがあつた場合に公的機関(自治体や国など)が、損失を補償する制度を確立してもらいたい。」(男性/知的障害)

「学齢期の障がい児を育てる保護者にとっては放課後および休日の居場所作りが大きな課題となっています。育成室の学年延長制度は本当に有難いですし、今後放課後等デイサービスの拡大にも大いに期待しているところです。利用したくても利用できない待機の状態に陥らないことを切に願います。」(男性/身体障害、知的障害)

「放課後の居場所対策を早急に検討して頂きたい。育成室は、フルで働き、祖父母が遠くに住んでいる、など条件が厳しく、また障害児枠も少ない。入れたとしても、学校から育成室までが遠く、うちの子は体力がないので通えない。例えば、通学している学校でそのまま放課後過ごせるようなサービスが欲しい。」(男性/知的障害)

「医療ケアがある児童は放課後、預ける所がありません。私の知り合いのお子さんはデイサービスを利用して送り迎えをしてくれるそうです(医療ケアのお子さんです)。文京区もお年寄りだけじゃなく医療ケアの障害児でも利用ができる施設を増やして欲しいです。ショートステイも文京区内であると助かります。」(男性/身体障害)

「健常児の兄弟がいる家庭は障害児への福祉サービスだけでなく、健常児兄弟へのサービスが必要だと思う。普通の子なら3年生くらいから留守番できるところを障害児はできないので、その弟妹の習い事の送迎ひとつとっても普通の家庭とは事情が異なっている。早くそういった福祉サービスが実現することを切に願っている。」(男性/知的障害)

③障害理解

「障害児でも健常児と同じ空間で過ごせること、とても大事だと思う。個人差ははあるだろうが、お互いの成長にプラスになると思う。」(男性/手帳なし)

「より多く接する時間があればお互い理解しあえると感じます。接する方法、接した機会がなければ誰でも避けて通りたくなったり、ジロジロ見たりしてしまうのは当たり前、幼い頃からの知り合いやクラスメイトに障害をもった子がいた経験のある人とならない人とは理解度が全く違う。」(男性/身体障害、知的障害)

「障害をもつ者は周りの方の理解がなくては社会の中で生活して行く事が難しいです。小さい頃から地域の中で自然な形で生活していける体制ができれば、まわりの方の障害に対しての理解が広まる気がします。」(男性/手帳なし)

④行政

「障害者福祉課には、他部署(教育、児童青少年、子育て支援)にまたがる問題の調整窓口役になる事を期待します。」(女性/知的障害)

「愛の手帳の申請をしましたがもらうことができませんでした。必要とされるサービスが手帳のあるとなしで受けられなかったりすることはとても不便であると感じています。」

(男性／手帳なし)

「色々なサービス、支援、給付があるがどれも制限があり（所得や手帳の度数）申請手続きが複雑、本当の意味で、サービスになっているのかわからない。」(男性／知的障害)

「手当・給付金を、所得制限により、支給されません。各々の家庭で、事情がちがいます。扶養が多い我が家では、所得制限に関係なく一律の支給を望みます。」(男性／知的障害)

⑤障害・疾患

「我が家は発達障害及び学習障害なので、目にみえる障害ではありません。家庭での教育が悪いや、わがまま等にみられます。ですが、改善するにはたいへん時間がかかり、先生もふくめまわりの方が思われる程簡単にはいきません。」(男性／手帳なし)

⑥生活環境

「駅のエスカレーター、エレベーター設置や通路、階段の拡張を考えて欲しい。出口はせまく手すり無しではのぼれない。息子の手を取り並んで上がる事も出来ず、片側通行をうながす矢印の貼り出しの中、邪魔そうに見られながら通学しています。」(男性／身体障害)

⑦将来

「親の亡き後が心配です。障害があるため、親戚からきらわれているため誰にも頼れません。安心して入れる施設とかあるんでしょうか？」(男性／知的障害)

⑧雇用・就労

「学校での学習以外に就労に向けた公立の取り組む機関が必要。今後、訓練や就労に向けた指導などを一貫性を持ってサポートする制度を要望します。小学生の頃から、就労を意識して取り組ませたいと思うが、現在は、民間の療育機関を利用しなければならず、経済的な負担がひじょうに大きい。」(男性／知的障害)

⑨その他

「障害児だからどうか、そのような気持ちは一切持ったことはありません。ただ、どんな状況であっても、子供らしく楽しめる環境を作ってあげたいと思います。その点、特別支援学校の先生は、とてもよくやってくれていて、心から感謝しています。」(女性／身体障害、知的障害)